

# 目次

はじめに	02
プロジェクトマップ	04
1. 松山 2060 ヴィジョン	06
2. スマートシティ	15
3. COVID-19 と UDCM プログラムデザイン	19
4. 公共空間の利活用	23
5. もぶるラウンジの運営	39
6. 情報発信プロジェクト	53
おわりに	58
【資料】	
活動履歴	60
論文・講演・受賞等	62
運営体制	63

# はじめに

松山市都市再生協議会 会長

矢田部 龍一

2020 年の年末に中国の武漢市で感染が始まった新型コロナウィルスは、中国からの観光客を通して 1 月には日本に入り、またたく間に日本全国に広がった。2 月末には公立学校に休講要請がなされるほどの感染拡大の勢いであった。5 月のゴールデンウィークの期間中は観光地がゴーストタウンと化した。人流抑制のために、テレワークが推奨され、全国の大学では対面授業の代わりにオンライン講義となった。大学構内に学生の姿はなく、グラウンドは雑草地となった。昨年から今年にかけては、東京五輪の話題もかき消されるほどコロナ一色の報道であった。また、コロナ感染拡大の対応で 2 人の首相がやめざるを得ないほどの政治案件にもなった。

新型コロナウィルスの感染拡大は、今後の人々の行動を根幹から変えることになる。テレワークやオンライン会議は、コロナ後も多用されることになる。日本の最大の課題の一つである東京の一極集中も是正される可能性さえある。

突然のコロナ禍は人々の生活を取り巻く状況を激変させた。この変化は、当然、まちづくりにも反映されることになる。人間の最大の欲である経済という怪物が根底にあって、人と物と情報の流れがまちを形づくってきた。それが東京一極集中を生みだしている。そのため、首都直下地震の危機が叫ばれても、東京一極集中は是正されることなく拡大の一途を辿ってきている。経済という怪物を支えてきた人の流れが変わり、結果として都市の形態が変わることになる。時あたかも都市の在り方の変化を促す流れが、押し寄せてきている。待ったなしのクリーンエネルギーへの転換が加速してきている。また、AI と情報伝達などの劇的進歩が、人々の生活様式を一変させようとしている。時代の変革を新型コロナ感染拡大が信じられないほどの力で後押ししたことは紛れもない事実である。我々は、全く新しい時代が来るということを肝に銘じなければならぬ。

それでは、将来、どのようなまちづくりが望まれるのであろうか。難しい問題であるので、良くは分からぬ。ただ人間は、大自然の申し子であるということだけは言える。そのため人間が生きていくためには、身近なところに自然が必要である。山、森林、野原、川、海などの多様な自然が必要である。今のまちづくりは効率化を前提として作られている。川の整備を見てみよう。瀬や淵のある曲線基調の川とコンクリート三面張りの直線基調の川を比べ

て、どちらが人間にとて楽しいものであろうか。それは前者に決まっている。ただ洪水災害への備えや土地の有効利用を考えると後者の選択肢もあり得る。また、道路で見れば、安藤廣重や歌川廣重が描いた東海道 53 次の風情は、経済が最高度に発展した今日の日本どこにも見出すことができない。本当に残念なことである。

戦後のまちづくりは、経済至上主義を根底に、効率化と自己主張が前面に出て形成されてきた。そのため全国各都市の駅前を見ても金太郎あめのような光景が形成されてきた。そこに、歴史や文化、また風土と言った感性はあまり認められない。

松山市は重要文化財に指定されている平山城である松山城を中心に形づくられている。また、町の東北部には道後温泉を中心に据えた街並みが広がっている。松山市を特徴づけるのは、町の中心部にある城山の緑と道後温泉界隈にある明治らしさを残す町並みである。

このように松山市は、歴史的文化財と豊かな緑といったまちづくりの資源に恵まれている。松山市では、今、道後温泉本館の改修と JR 松山駅前の高架事業に伴う駅前再開発の事業が進んでいる。また、坂の上の雲のまちづくりで中心市街地の整備が進められている。そのタイミングで UDCM が設置され、精力的に各種の活動が展開されている。活動の素晴らしさは、まちづくりに関わる多くの受賞となって表れてきている。

松山市民に松山の宝に関するアンケートを取れば、道後温泉と松山城がトップ争いをすることは自明である。道後温泉は建築後 120 年が経過し、松山城は 400 年が経過している。しかし時代は経ても、松山市の宝として燐然と輝いている。松山市が経済的に今ほど発展した時代はない。そのため、何百年後の人々からも宝と認められる松山の町並みを残していくのは、高度に経済発展をした今を生きる我々の責務である。

新型コロナ感染爆発の中にあって、この一年、UDCM の取り組みも大きな制約を受けたことは否めない。しかし、時間は決して取り戻すことができない。各種の制約がある中で、UDCM の限られたスタッフが、獅子奮迅の活躍をして最大限の成果をあげてきている。是非、本文をじっくりと読んで、松山市のまちづくりに関わる各種の提案や意見をいただきたい。



## 2020 年度のプロジェクトマップ

### 〈松山 2060 ヴィジョン〉

#### 〈都市形成史リサーチ〉

松山の将来像検討の基礎資料として、松山市の都市の成り立ち（都市空間の変遷の履歴）を文献資料及び現地調査から明らかにする取り組みを行なった。



#### 〈駅周辺のエリアマネジメント〉

松山市駅、松山駅の駅周辺整備事業を総合的かつ周辺エリアの関係者と共同で進めていくことを目的とし、国土交通省都市局の補助事業の採択を受け、駅周辺エリアのエリアマネジメント企画提案に関する事業を実施した。



### 情報発信



#### 〈まち @ ラヂ〉

市民編集部による企画と月1回の市長インタビューにより、松山のまちづくりに関する情報発信を行った。今年度は、計27回放送した。



#### 〈松山歴史まちあるき〉

松山市郊外の歴史アーカイブを目的とし、坂の上の雲ミュージアムとの共同で、今年度はモデル作品として余土地区の歴史に関する映像作品の企画・制作を行った。



### もぶるラウンジの運営

#### 〈もぶるラウンジの運営〉

COVID-19 の感染拡大に対し、感染予防対策内容を追加した運営マニュアル及び利用案内を作成し、各種対策を講じながらラウンジ運営を行った。



#### 〈花園町通りに関する展示と冊子〉

花園町通りでのイベント開催の再開にあわせ、花園町通りの歴史に関する年表や古写真等を用いた展示をおこなった。



## 〈松山スマートシティプロジェクト〉

### 〈モデルプロジェクト〉

データ駆動型都市プランニングを実証するため、松山スマートシティ推進コンソーシアムは、昨年度から引き続き、国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトを受託した。



### 〈日産自動車との共同研究事業〉

7月から9月、10月から3月までの2度にわたり、日産との共同研究を実施した。共同研究は、新モビリティサービス導入の効果について検討可能なミクロ交通シミュレーションモデルの構築を行った。



### 〈花園オーブンテラス〉

花園町通りでのイベント開催の再開にあわせ、花園町通りの歴史に関する年表や古写真等を用いた展示をおこなった。



花園町オーブンテラス検討の様子

### 〈屋外空間でのイベント開催支援〉



花園町通り写真コンテスト企画

### 〈お散歩プログラム〉

公共空間への外出機会、周辺店舗への立ち寄り機会の創出を目的に、散歩・回遊コースとおすすめ立ち寄りスポットの紹介を行った。



お散歩プログラム

Chapter

# 01

## 松山 2060 ヴィジョン

都市の成り立ちのリサーチをもとに、将来ビジョンをまとめるこ  
とを目的とする。今年度は、松山市全域を対象として、都市形成  
史に関するリサーチを学生スタッフとともに行った。また、国土  
交通省による官民連携まちなか再生推進事業を受託し、松山市駅、  
松山駅周辺を対象としたエリアマネジメントのあるべき姿につい  
ての検討を行った。

# (1) 都市形成史

本年度は、松山の将来像検討の基礎資料として、松山市の都市の成り立ち（都市空間の変遷の履歴）を文献資料及び現地調査から明らかにする取り組みを行なった。愛媛大学のサポートスタッフ 10 名とともに、各種資料調査及び現地調査を実施した。

## 1) 都市形成史が求められる背景

人口減少や少子高齢化が進展する中、これらに対応した新たなまちづくりが求められている。現在、松山市では、より一層コンパクトな都市構造を目指した都市空間改変などに取り組んでいるが、将来にわたって一貫したまちづくりを進めていくためには、過去の都市の形成過程などを踏まえた 50 年先、100 年先の将来ビジョンの策定が望まれる。

また、コンパクトなまちを目指す中で、中心市街地だけではなく、周囲に位置する郊外地区や島嶼部、隣接自治体とネットワークを形成し、広域計画による都市経営の合理化や広域イメージの形成による観光交流人口の創出等も重要視され始めている。松山市においては、こうした広域的観点からの計画として「フィールドミュージアム構想」が策定されているものの、より深い地域の理解に基づく計画の更新やその歴史文化資源の活用が期待される。

以上の背景をふまえ、松山市全体の都市の成り立ちに関するリサーチを行なった。

## 2) 資料の構成と各章の概要

本調査では、各種歴史資料をもとに、空間及び景観の変遷の観点から調査分析を行い、空間・景観記述から見える都市の特徴を将来像の検討に必要な基礎的な知見として整理した。本調査資料は、全 4 章から構成され、それぞれ中心市街地、道後温泉、郊外、島嶼部に関する調査内容をまとめている。

## 3) 資料の公開について

3 章のリサーチ結果の一部は、日本都市計画学会への投稿論文として取りまとめ、投稿した。（令和 3 年 4 月提出）本調査をもとに作成した資料は、最終修正を行なった後、UDCM のウェブページにて公開予定である。また、本リサーチに際して整備された各種データ（例えば過去の用途地域図など）についても、UDCM のウェブページにてアーカイブ・公開し、研究情報基盤として整備を進めていく。

## 【1章 中心市街地】

### 構成

- 1.1 城下町の構造
- 1.2 駅と公共施設の立地
- 1.3 戦災復興
- 1.4 現代の都市整備

#### 〈概要〉

中心市街地は近世、近代化、戦災復興期、現代の4つのパートに分けて調査を行なった。まず近世城下町の空間構造について、城下町の13の入口と旧街道との接続状況について把握し、城下町の領域性と現代の都市空間との関係性について整理した。また、近代化については、中心市街地が形成される過程で設置される公共交通や施設群の立地経緯をまとめた。戦災復興事業は、現代の都市空間の構造を決めている部分も多く、現代に引き継がれる空間履歴に着目し整理を行なった。最後に、松山市により行われる「歩いて暮らせるまちづくり」をコンセプトとした取り組みの経緯と、そのコンセプトのもと事業化されたロープウェー街及び花園町通りの道路空間再配分事業の概要についてとりまとめた。

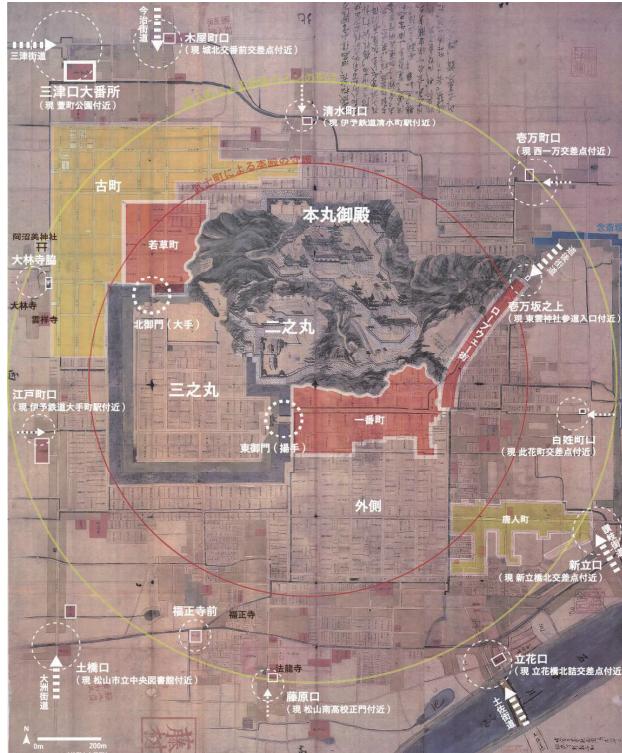
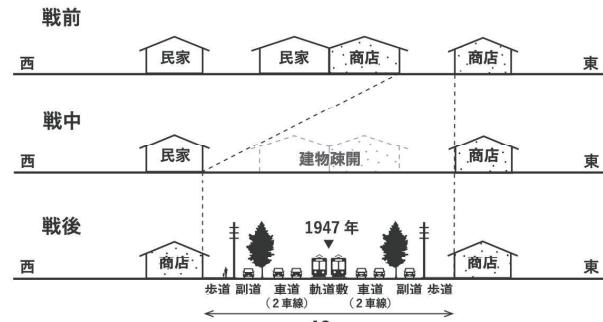


図 松山城下町の入り口（一部）  
(松山城下町宝暦図(1627年頃)の上に追記)



松山軍事施設配置  
(国土地理院空中写真の上に追記)



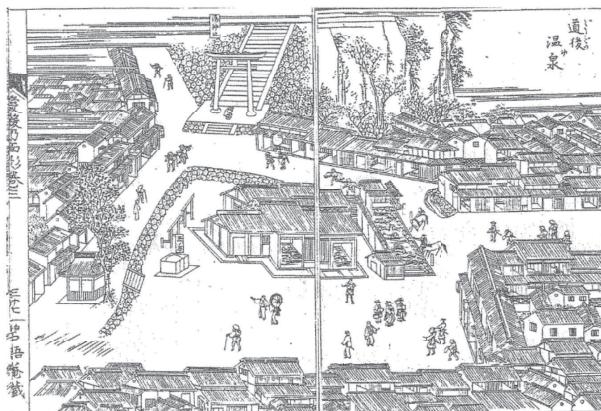
戦災復興事業による花園町線の幅員拡張

## 【2章 道後温泉】

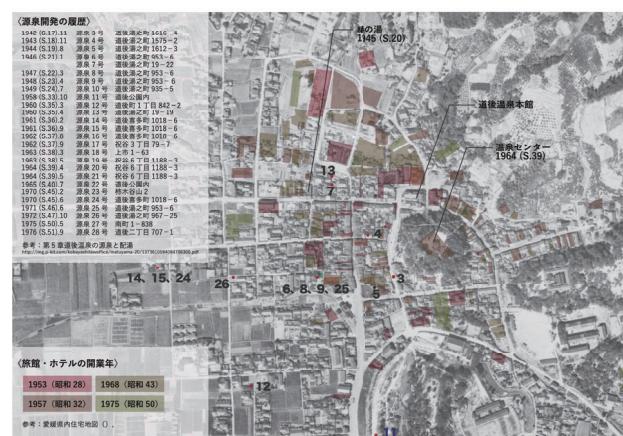
- 構成
- 2.1 道後温泉の歴史的空間構成
  - 2.2 戦後の内湯化と市街地化
  - 2.3 現代における道後温泉の活性化

### 〈概要〉

道後温泉は、3つの時代区分から整理を行なった。まず初めに、近代化（本館増改築）されるまでの歴史的空间構成については、絵図に描かれる道後温泉街の領域が拡大していく過程で遊郭街が街の外側へ移転していくことを仮説として資料の整理を行なった。また、戦後源泉開発が行われ内湯化される経緯と観光地域の市街地化の状況について整理した。最後に、現代の「歩いて暮らせるまちづくり」のコンセプトのもと行われた本館周辺の街路整備事業及び飛鳥乃湯泉整備による空間改変の状況と今後の上人坂の活性化に関する構想について整理した。



出典:『道後温泉水本館の歴史』



60'・70' の源泉開発とホテル開発  
(国土地理院空中写真の上に追記)



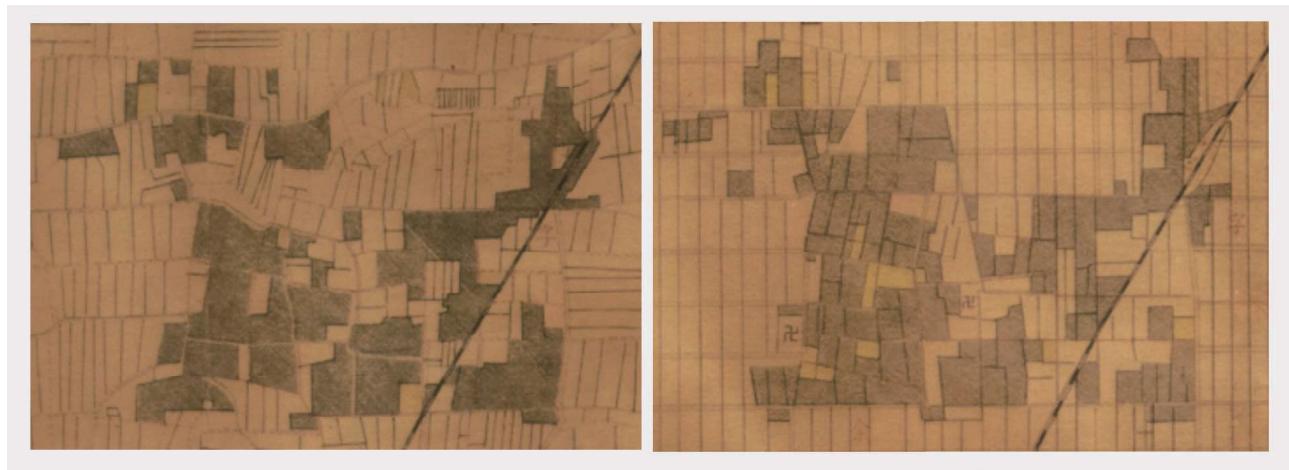
## 構成

- 3.1 三津浜
- 3.2 余土
- 3.3 石井
- 3.4 久米

## 【3章 郊外】

## &lt;概要&gt;

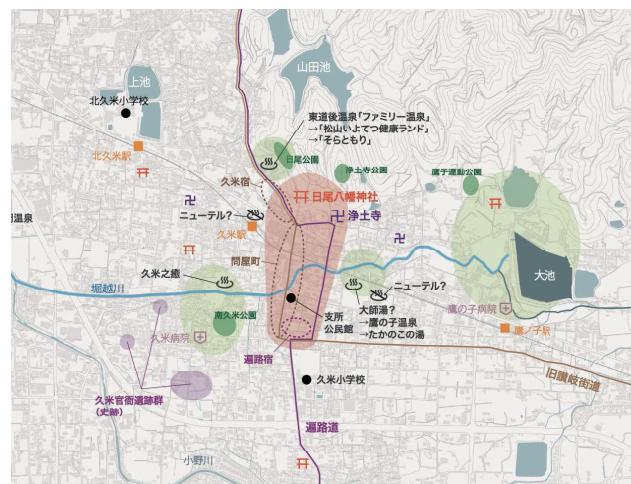
郊外については、三津浜、余土、石井、久米の4地区について調査を行なった。三津浜は、港町として栄えた当時の歴史的建造物などが残された地区であり、その港街の歴史的空间構造について把握した。余土、石井、久米については、いずれも農村としての歴史を持つ旧村地域であるものの、その立地条件や当時の行政による農業政策、地域特有のまちづくりの違いによる景観の変遷と特徴について考察を行なった。



旧余土村耕地整理図の一部（余土公民館所蔵）



石井地区の団地と街路網  
(国土数値情報地図の上に追記)



久米地区の地域資源と空間構造  
(国土数値情報地図の上に追記)

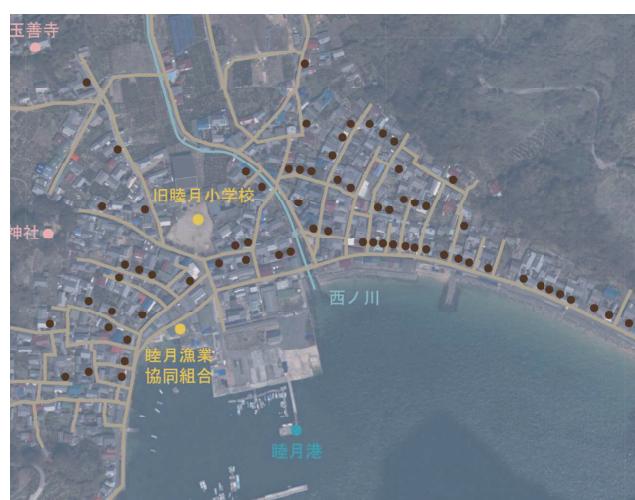
## 【4章 島嶼部】

### 構成

- 4.1 忽那諸島の概要
- 4.2 興居島
- 4.3 中島（西中島、東中島）
- 4.4 瞳野（睦月島、野忽那島）
- 4.5 神和（忽和島、津和地島、二神島）
- 4.6 安居島

#### 〈概要〉

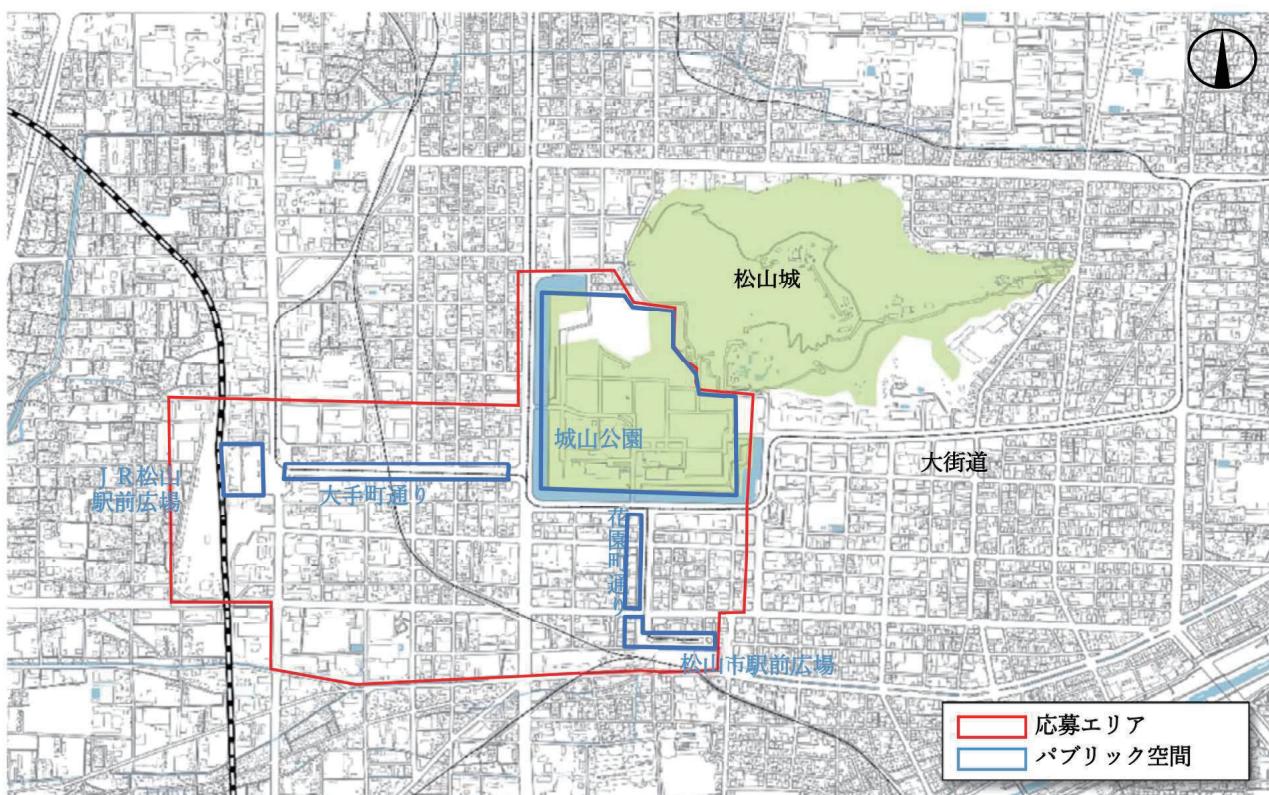
島嶼部については、忽那諸島の各島の特徴を、瀬戸内海を眺める浜の観光資源としての価値と、農村の建築様式として知られる長屋門の立地（残存）状況に着目し整理を行なった。特に睦月島や津和地島には長屋門等の伝統家屋が一部増改築されながらも数多く残されていた。また野忽那島はその立地構造上、瀬戸内海の周囲を眺める視点場として多様な景観体験が可能になる可能性が明らかにされた。こうした、文化財未満の歴史文化遺産や国立公園における自然資源を活用した島の観光のあり方について言及した。



## (2) 官民連携まちなか再生推進事業

現在松山市で進められている松山市駅、松山駅の駅周辺整備事業を総合的かつ周辺エリアの関係者と共同で事業を進めていくことを推進することを目的とし、国土交通省都市局の補助事業である表記事業に応募した。結果、700万円の補助が決定し、今年度は下記の事業を行なった。

本事業は、松山市都市再生協議会が事業主体となり、実行組織として一般社団法人松山アーバンデザインネットワークが委託を受け、復建調査設計及びIRC（いよぎん地域経済研究センター）との共同で事業を実施した。



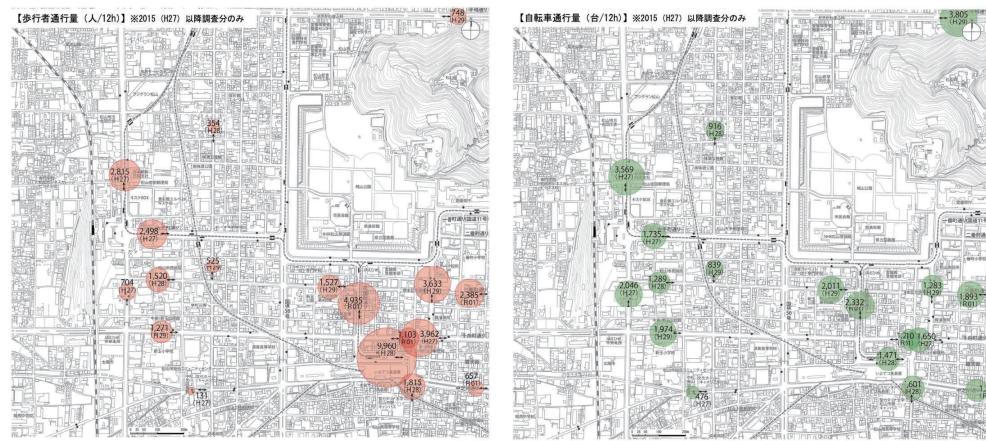
事業の対象エリア：松山市中心市街地西部

## 1) 駅周辺の基礎データの整理

これまで松山市や愛媛県が調査・整備してきた都市空間の現状把握に関するデータを整理した。また、対象エリアの公共施設利用実態及び管理規定等を調査し、今後の駅周辺エリアの空間構造的課題抽出及び公共空間管理の再編に向けた現状把握を行なった。

## 2) 他都市との比較をふまえた拠点駅周辺エリアの立地特性分析

IRCとの共同では、駅周辺地区の事業所立地及び地価などの経済的指標を観点に、松山市と類似する中核市との比較考察を行い、今後の駅周辺エリアの課題抽出を行なった。



対象エリアの近年の歩行者通行量及び自転車通行量  
(出典：松山市オープンデータ、愛媛県調査)

各都市の2020年公示地価または都道府県基準地価

	松山市	岡山市	倉敷市	大分市	福山市	高松市	高知市	久留米市
JR駅から最寄り地点(円/㎡)	基 198,000	公 1,520,000	公 138,000	公 650,000	公 530,000	公 248,000	基 223,000	基 157,000
所在(JR駅からの距離)	大手町1-8-16外(駅510m)	北区本町2-1(駅300m)	阿知1-14-10(駅220m)	末広町1-1-32(駅0m)	伏見町4-38(駅150m)	西の丸町10-15(駅250m)	はりまや町1-3-19(駅720m)	城南町2-30(駅70m)
私鉄駅から最寄り地点(円/㎡)	基 307,000	-	-	-	-	公 205,000	-	基 204,000
所在(私鉄駅からの距離)	南堀端町6-11(駅520m)	-	-	-	-	瓦町2-12-2(駅180m)	-	東町38-44(駅200m)
最高地点(円/㎡)	公 821,000	公 1,520,000	基 370,000	公 650,000	公 530,000	公 265,000	公 269,000	公 211,000
所在(JR駅からの距離)	大街道2-4-13(駅1,770m)	北区本町2-1(駅300m)	阿知2-9-10(駅350m)	末広町1-1-32(駅0m)	伏見町4-38(駅150m)	南新町4-3(駅1,140m)	帯屋町1-9-7(駅980m)	日吉町16-16外(駅1,300m)
JR最寄り地点価格 最高地点価格	0.24	1.0	0.4	1.0	1.0	0.9	0.8	0.7

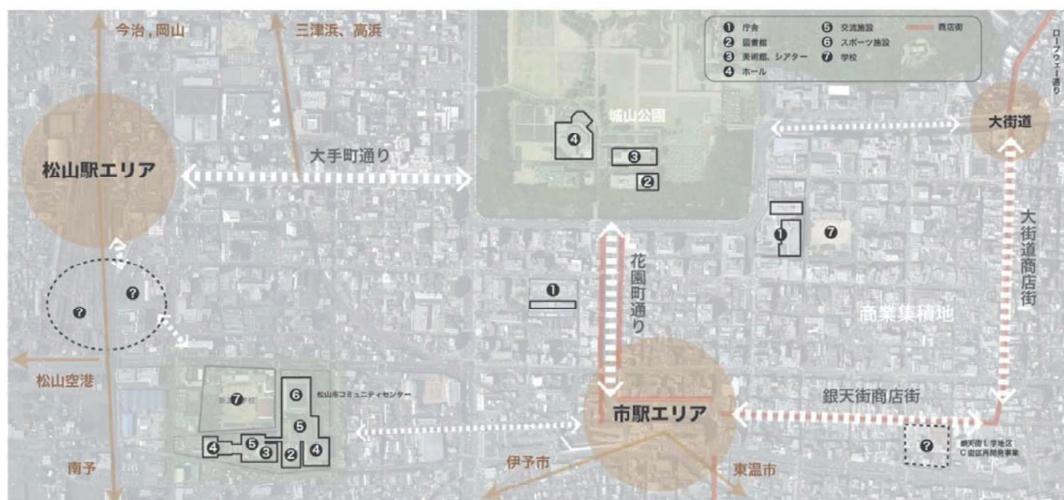
公 公示地価 基 基準地価

中核市の地価比較

(出典：各自治体ウェブサイト、「土地代データ」ウェブサイト)

### 3) 駅周辺エリアの主要拠点及び動線検討

松山駅と松山市駅を含む松山市中心市街地西部エリアの主要施設の立地とそれを結ぶネットワークの充実化に向けて、対象エリアの空間構造の検討を行なった。この際に、経済の中心である大街道・銀天街エリアとの関係もふまえ、駅周辺エリアの位置付けの検討を行なった。



松山市中心市街地西武エリアの空間構造検討資料  
(国土地理院地図の上に追記)

### 4) 駅周辺エリアのマネジメント課題整理

今後、駅周辺エリアの価値向上に向けた取り組みを期待し、エリアマネジメントを行う上で組織・関係者の構成案や、公共空間管理のルール、公民が連携して事業を行う際に検討すべき一般的な事業項目の整理を行なった。

区分	1. 整備	2. 管理（最低限の管理）	3. 活用（プラスαの取組）
取組	<p><b>1-1 空間・環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通施設（駅前広場、道路付属物、駐車・駐輪場等）の整備</li> <li>公的施設（トイレ、フリー スペース等）の整備</li> <li>植栽整備</li> </ul> <p><b>1.2 情報インフラ整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、SNS、広告基盤の整備</li> <li>まちなかコンシェルジュの設置</li> <li>エリアデータの収集</li> </ul>	<p><b>2.1 空間・環境管理</b></p> <p><b>【施設管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通施設（駅前広場、道路付属物、駐車・駐輪場等）の管理</li> <li>公的施設（トイレ、フリー スペース等）の管理</li> </ul> <p><b>【環境管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植栽剪定</li> <li>防災・防犯、清掃、警備等に関する管理</li> </ul> <p><b>2.2 情報インフラ管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページやSNS、広告基盤の管理</li> <li>まちなかコンシェルジュの管理</li> <li>エリアデータの管理</li> </ul>	<p><b>【サービス提供】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>椅子、テーブル等設置（滞留空間創出）</li> <li>新しい交通サービスの導入</li> </ul> <p><b>【まちの賑わいづくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>季節に応じたイベントや様々な組織と連携した賑わいづくりの企画・実施</li> </ul> <p><b>【コミュニティ・連携づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係者の交流拡大</li> <li>フリースペース、情報発信スペースの運営</li> <li>エリア情報を提供するためのホームページやSNS、広告等の</li> <li>まちなかコンシェルジュの実施</li> <li>エリアデータの管理</li> </ul>
仕組み	<p><b>コミュニケーション、体制づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基盤となるコミュニティの形成</li> <li>エリアマネジメントの体制づくり</li> </ul> <p><b>ルールづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建築物、工作物、その他広告物等のデザインガイドライン等の整備及び運用</li> <li>公共空間活用のルールづくり</li> </ul>		

エリアマネジメント組織の行う事業項目整理表

Chapter

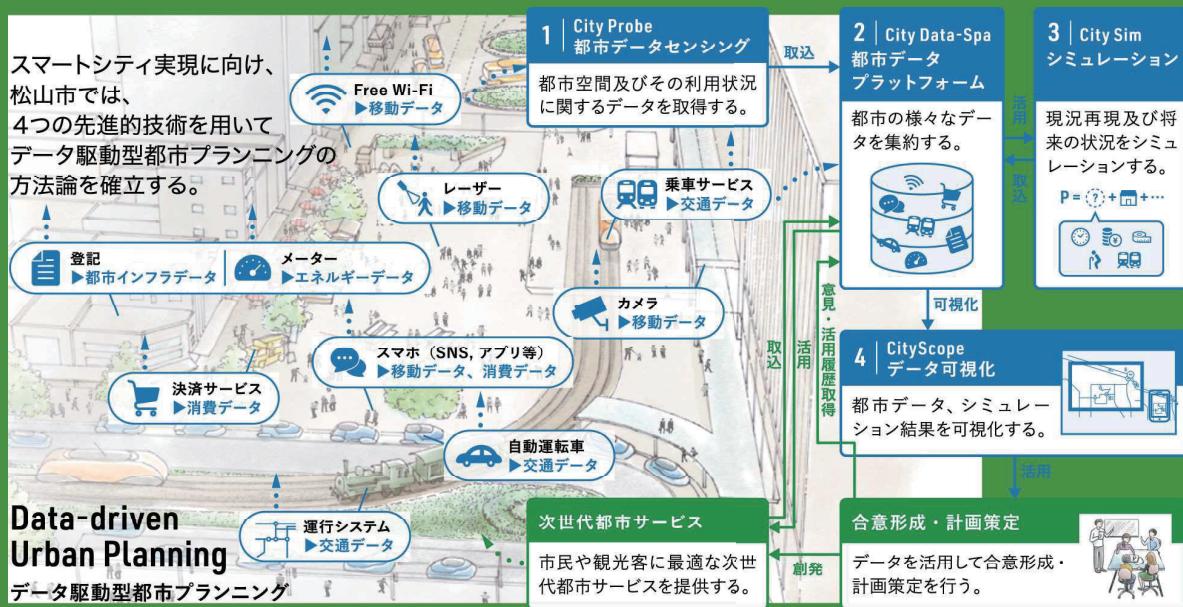
# 02

## スマートシティプロジェクト

既成市街地の更新や次世代都市サービスの導入をモデルケースとして  
データ駆動型都市プランニングに基づいたまちづくりを提案し、その  
実現を目指す。

### データ駆動型都市プランニング |

City Probe、City Data-Spa、City Sim、City Scope の 4 つの技術を用いて、  
合意形成・計画策定を行い、次世代都市サービスの導入や提供につなげる、  
このデータを活用したまちづくりの方法論を下記の「データ駆動型都市プラ  
ンニング」と呼ぶ。



## (1) スマートシティモデルプロジェクト

松山スマートシティ推進コンソーシアムは、昨年度から引き続き、国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトを受託した。

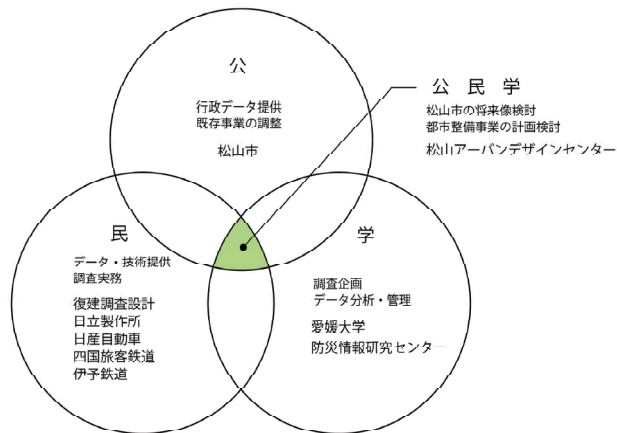
この取組みで次世代モビリティサービスの導入に向けた検討を進めるにあたり、新たに日産自動車をコンソーシアムメンバーに加え、公民学の連携体制により実施した。

本プロジェクトでは、大きく2つの取組みを行った。

### 1) 市駅前広場整備事業の合意形成でのデータ駆動型都市プランニングの適用

松山市駅は、一日約3万人が利用する市内最大の交通結節点である。松山市は、コンパクトシティのシンボル広場として、この市駅前広場の歩行者空間を大きく拡大する整備を進めており、現在、基本設計業務を行っている。

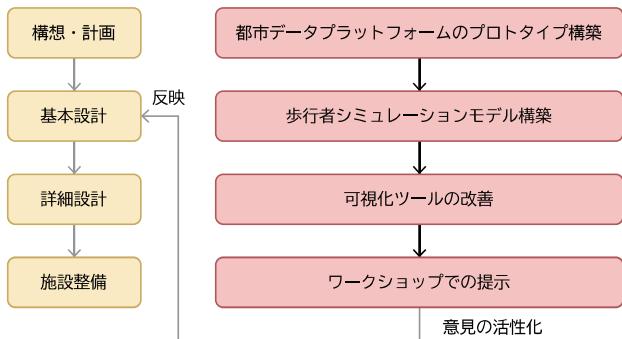
本実証実験では、人の流れのシミュレーションやワークショップを実施し、データ駆動型都市プランニングのサイクルを試行しながら、設計への適用を検証した。



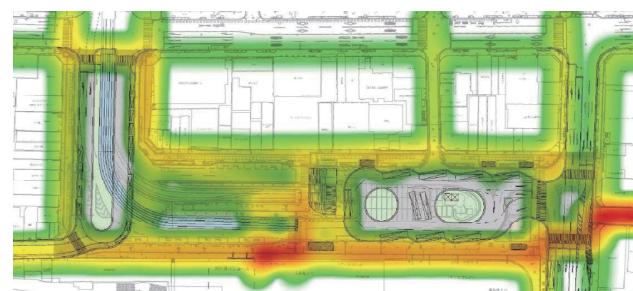
松山スマートシティ推進コンソーシアムの構成



市駅前ワークショップ (2021.2.27)



市駅前広場整備事業でのR2プロジェクトの位置づけ  
※赤枠が本プロジェクトの取り組み箇所

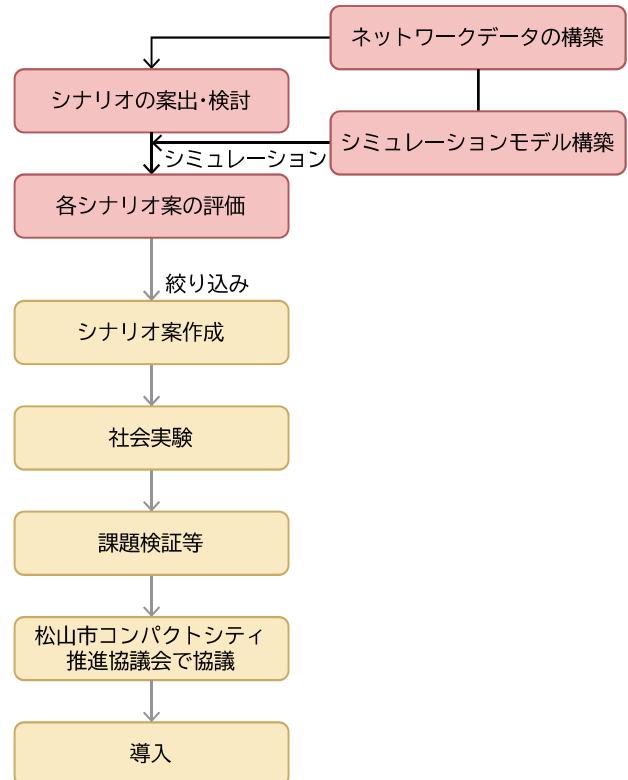


市駅前広場整備後の人々の流れのシミュレーション結果

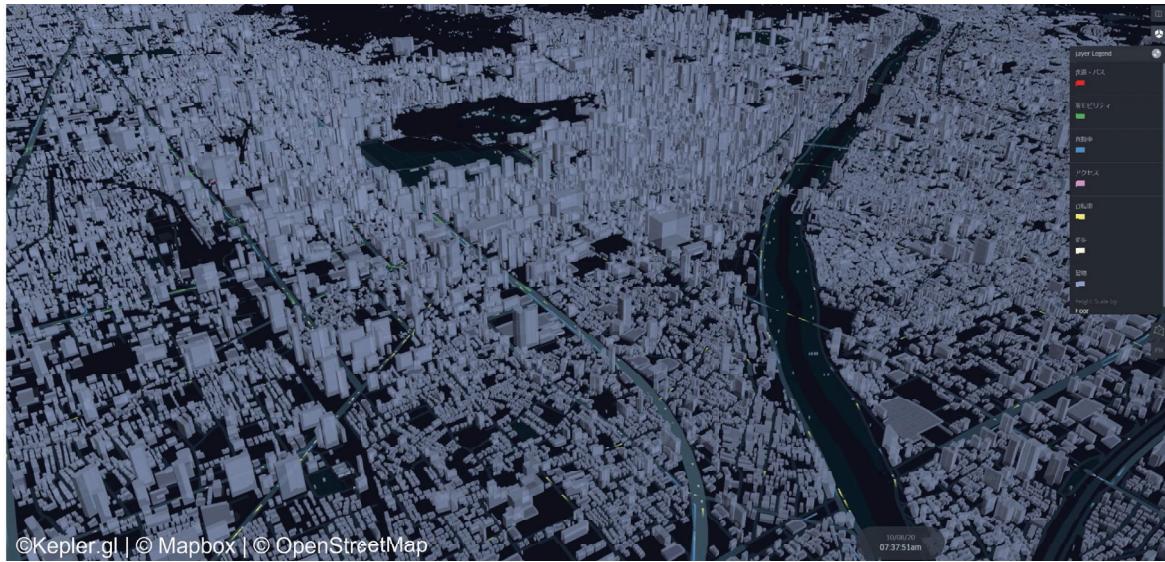
## 2) 次世代モビリティサービスの導入に向けたデータ駆動型都市プランニングの適用

公共交通事業は、採算性や運転手不足が課題になる中、自動運転技術等を活用した次世代モビリティサービスの導入が考えられる。この新しい交通システムは、過疎地域等の廃線バス路線の代替手段としてだけではなく、高齢化が進む中、中心市街地等で求められる多様な公共交通手段として期待できる。そこで、既存公共交通と一体的な交通サービスとして、全体最適を図りながら、導入、運営していくことが望まれる。

今年度は、次世代モビリティサービスの導入シナリオ案を検証するため、既存交通への影響や連携等を評価できるミクロ交通シミュレーションモデルを構築した。



次世代モビリティサービス導入フロー  
※赤枠が本プロジェクトの取組み箇所



kepler.gl でのミクロ交通流シミュレーションの可視化

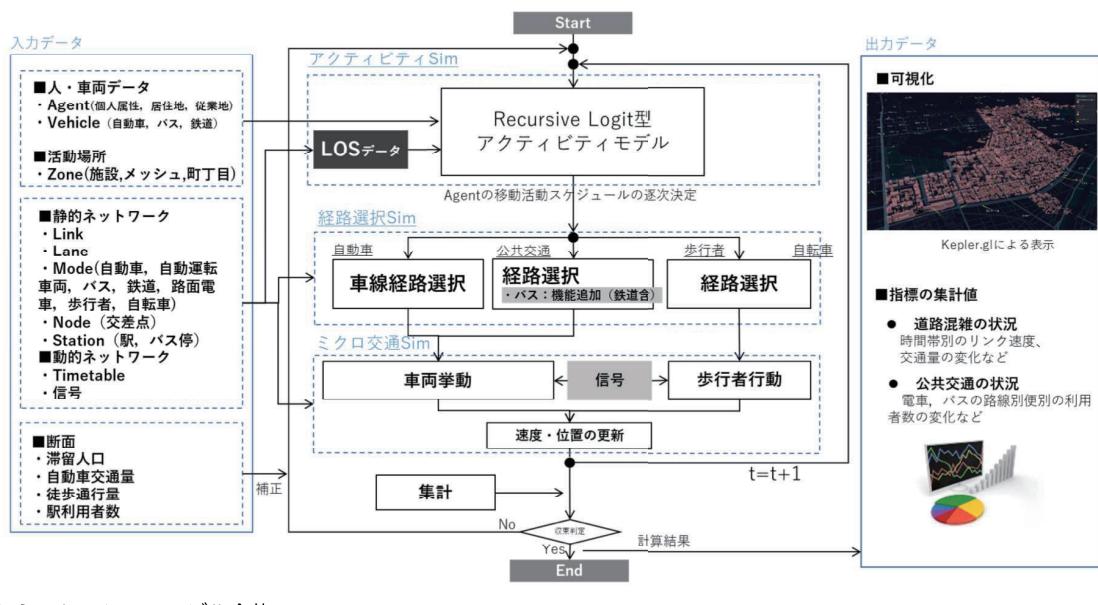
## (2) 日産自動車との共同研究事業

7月から9月、10月から3月までの2度にわたり、日産との共同研究を実施した。共同研究は、新モビリティサービス導入の効果について検討可能なミクロ交通シミュレーションモデルの構築を行った。

シミュレーションモデルの構築については、東京大学羽藤研究室で開発されてきた交通シミュレーションモデルHongoを追加開発することで実施した。本年度、UDCMが開発した機能は、信号機能、バス機能、新モビリティ（自動運転車両等）サービス機能等である。従来のHongoでは、高速道路での自動車交通や都市部での鉄道交通のシミュレーションを主としていたことから、信号やバスといった機能を加えることで、都

市圏中心部での評価が可能なものへと追加開発を行った。

追加した機能を活用することで、松山都市圏レベルでの複数交通手段を考慮したシミュレーションが可能となった。そのシミュレーションは、道路混雑にもたらす影響、公共交通にもたらす影響、新モビリティサービス案の定量的な評価結果を示すことができる。今後は、今回構築したミクロ交通シミュレーションモデルを活用することで、スマートシティプロジェクトの中で、次世代モビリティサービスの導入案を示すことを検討している。



## (3) スマートシティモデルプロジェクト（追加補正）

12月に国土交通省から、早期社会実装に向けたスマートシティ実証実験の提案募集があった。

都市空間や交通サービスへの活用だけでなく、防災とのデータ融合とそれを用いたサービス（City Safe）の可能性に関するデータ駆動型都市プランニングの知見を得るために、松山スマートシティ推進コンソーシアムで、この追加募集に応募し採択された。

今後、洪水・内水氾濫での動的な水位データと避難行動で相互作用のあるシミュレーションを実施し、徒歩や自動車の避難シナリオ別の住民の避難行動データを作成する。また、これを3D都市モデルやVR等に重畠して可視化することで、住民の防災意識向上や防災タイムラインの作成につなげ、流域治水の推進を図る。

Chapter

# 03

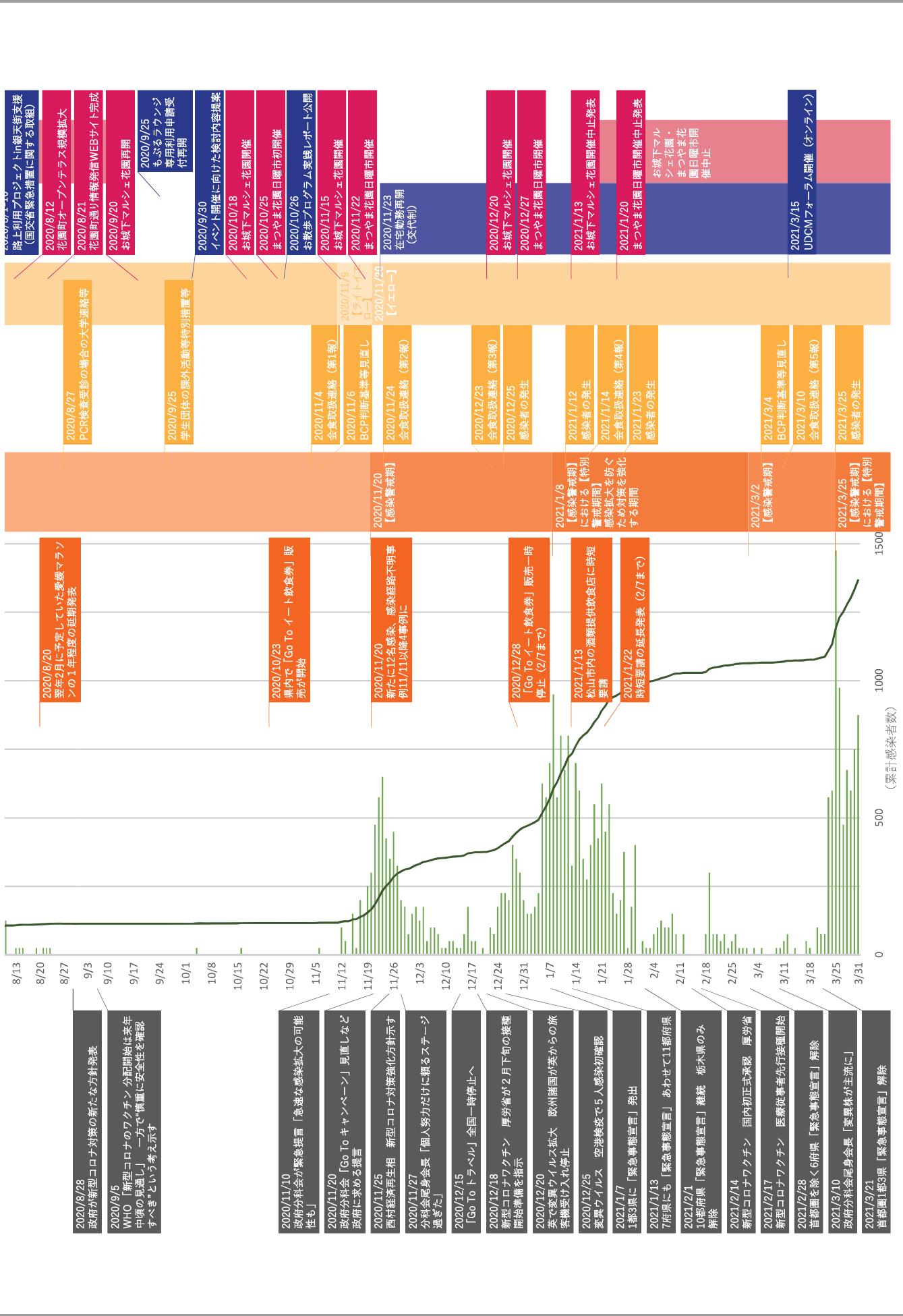
## COVID-19 と UDCM プログラムデザイン

世界規模で感染が拡大した COVID-19 は、ここ松山でも脅威を振るっている。UDCM は、所在地である愛媛県の対応や、常勤スタッフの雇用元である愛媛大学の BCP（事業継続計画）などと足並みをそろえ、対応した。残念ながら UDCM 設立時から取り組んできた「松山アーバンデザインスクール」の開講は見送ったが、松山市発注の賑わい再生を目的とした社会実験から UDCM による自主運営への転換期であった「もぶるラウンジの運営」と「公共空間の利活用」、また情報発信を目的とした「情報発信プロジェクト」においては、状況に合わせながら取り組んだ。

次頁の図に 2020 年 1 月以降 UDCM や松山のまちが置かれた状況、各々の対応を時系列的に示した。4 月 16 日の緊急事態宣言の前後においては、事態の終息が見えず、活動の見通しを立てることも難しかったが、電話や WEB 会議システム等を活用し、スタッフ間はもとより、これまで関係性を築いてきた地域の方々との対話継続を図った。その中で、「今、松山のまちに UDCM だからこそ取り組めることは何か」を改めて意識し、6 月以降は状況にあわせて何度も予定を立て直しながら、地域の方々が行う実空間での活動支援等にも撮り組んだ。個々の活動については次章以降で詳しく振り返る。

## COVID-19 と UDCM をとりまく状況（2020.1-2021.3）





## 出典

世界・国内状況：

NHK 特設サイト新型コロナウイルス、主要なニュース

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/?mode=digest&target=latest>

(2021.4.28 最終閲覧)

愛媛県：

愛媛新聞 ONLINE、新型コロナウイルス関連情報、県内ニュース

<https://www.ehime-np.co.jp/online/news/coronavirus/>

(2021.4.28 最終閲覧)

愛媛大学：

愛媛大学全職員向け事務連絡メール、2020.1.21-2021.3.31

花園町通り：

1. お城下マルシェ Instagram、@ojokamarche

2. 花園みんなで創るプロジェクト Instagram、@hanazonodori

3. 松山アーバンデザインセンター facebook、@UDCMatsuyama

Chapter

# 04

## 公共空間の利活用

松山市中心市街地賑わい再生社会実験の終了に伴い、本年度からUDCMによる自主運営に切換え、まちづくり拠点である「もぶるラウンジの運営（後章）」と「公共空間の利活用」をおこなうこととなった。COVID-19の混乱の中、模索しながら取り組むこととなったこの1年の活動を振り返る。

COVID-19による混乱が広がる中、これまで取り組んできたみんなのひろばや（2014-2018）、花園町通り（2018-）、またアーバンデザインスクール（2014-）でのプログラム企画等の知見を活かし、「地域事業者等を支援すること」と「公共空間と市民をつなぎとめる機会を提供すること」を本年度の活動方針として打ち出し、結果として次の6点のことを取り組んだ。

- ・花園テラスの事業化支援
- ・お散歩プログラムの提案
- ・路上利用プロジェクトの立ち上げ・実施支援
- ・屋外空間でのイベント開催手引きの提案
- ・まつやま花園日曜市の開催支援
- ・まちの風景や魅力等を発信する小冊子発行

## (1) 花園テラスの事業化支援

### 1) 経緯と緊急事態宣言下のまちの状況

昨年度、花園町通りで約4か月間に渡り取り組んだ沿道店舗と連携したカフェテラス社会実験「花園テラス」は、地元の花園まちづくりプロジェクト協議会（以下「地元協議会」）から高評価を得た。今年度から地元協議会が主体となって事業化することを目標に、検討の話し合いを昨年度末から進めていたが、COVID-19の感染拡大による外出自粛や緊急事態宣言により、事業化に向けた話し合いが止まってしまった。その要因は、大きく3つある。「メンバー全員で話し合うツールがなかったこと」、「会合する機会を失ったこと」、「挨拶・雑談をためらうほどの緊張感がまちに漂っていたこと」である。

もとより、メンバーのほとんどが高齢者であり、地元協議会内でメールを使える人は数えるほどしかいない集まりである。また、これまで毎月開催されていたマルシェイベントのために開いていた定例的な会合も、イベントの相次ぐ中止により、集まる機会を失った。何より、雑談によるコミュニケーションが、地元協議会内だけでなく、日常のまちから失われた。当時を振り返ると、隣近所の店舗でさえ、挨拶をするのもためらわれるほど、緊張感が漂っていたのをよく覚えている。

また飲食店が多く立地している花園町通りでは、テイクアウトを開始する店舗もある中、休業等に追い込まれる店舗も少なくなかった。

### 2) 対話の再開と運営マニュアル案の提供

そういった状況下において、途切れてしまった対話を再開するため、UDCMディレクターから地元協議会の会長と副会長、また連絡のつく店舗の方々に電話等で毎週連絡を入れるようになった。近況の共有など、雑談になるような話を続け、その中で「飲食店が予想以上に影響を受けている状況」や、「それに対して地元として何か支援したいが現状はできておらず、もどかしく感じている思い」等を把握することができた。一方、沿道の飲食店の中には「店内の3密を回避するために通りのテラス利用を強く希望」しているが言い出せずにいる店舗があることも確認できた。



花園町オープンテラス（6月）



昨年度のカフェテラス社会実験「花園テラス」



花園町オープンテラス（8月）

そこで、UDCMディレクターが「何か支援したい」と思っている地元協議会会長たちと「通りのテラス利用を強く希望」している店舗の間に入り、通りのテラス利用に向けた話し合いを再開した。また、双方の意見を聞きながら、運営マニュアル素案をUDCMが作成し、路上利用のための各種手続きをおこなう地元協議会に提供した。

実際、会長たちが乗り気になるまで、そう長い時間はからなかった。もともと事業化に向けて動き始めようとしていたこともあり6月1日には、地元協議会が道路占用、道路使用許可の手続きをおこなって進める事業「花園町オープンテラス」が開始された。6月の開始直後は、使用する椅子・テーブル等の準備や、運営マニュアルの周知が行き届いておらず、1店舗のみの参加であったが、8月には7店舗にまで参加店舗を拡大するに至った。

昨年度、UDCMが経験した道路占用、道路使用許可の手続き等の知見を発揮でき、また花園町通りのためにとりまとめた運営マニュアル素案が、その後の「路上利用プロジェクト立ち上げ・実施支援（後述）」の際にも役立ったのである。



花園町オープンテラス検討の様子

(2020年4月●印刷)

『花園町オープンテラス』  
 運用マニュアル（案）

花園まちづくりノレンエクト協議会  
(協力 松山アーバンアーティストセンター)

**目次**

1. 『花園町オープンテラス』の趣旨・目的	1
2. 『花園町オープンテラス』の基本ルール	2
3. テラス管理者になるための手続き・準備	3
4. 体制とアフターマネジメント	4
5. 實用可能な備品等	5
6. テラス管理者になる時の提出書類1（申請・計画書）	6
7. テラス管理者になる時の提出書類2（契約）	8
8. テラス管理者を許退する時の提出書類（許退届）	10
9. 提出書類の記入例	12

提供した運営マニュアル素案（表紙）

## (2) お散歩プログラムの提案

### 1) 経緯

前述の緊急事態宣言下での地元協議会会長たちとの対話の中で、飲食店等が大きな影響を受けていることを改めて知った。これまで、公共空間でのプログラムデザインに携わってきた UDCM に、今できることは何かを話し合う中で「外出自粛要請が解除された時期に、感染対策を講じながら屋外空間での過ごし方、周辺店舗への立ち寄り機会を提案することは、我々の仕事なのではないか」という 1 つの結論に達し、公共空間への外出機会の提供と、周辺店舗への立ち寄り機会の創出を目的に、1 人や少人数で楽しめる散歩・回遊コースとおすすめ立ち寄りスポットを紹介する「お散歩プログラム」を作成・提案することにした。

### 2) 検討方法

すべてのスタッフが在宅勤務の状況下であった 5 ~ 6 月に取り組んだため、打合せや情報共有はすべてリモートで、zoom や Slack を活用して実施した。学生スタッフの中には、愛媛県外の実家に帰省したままの学生もいたため、現地調査においては Google ストリーントビュー等も活用しつつ実施した。

**実践レポート【昼散歩01】お散歩ピクニックin花園町**

レポーター:増田杏(学生スタッフ)  
一緒に散歩した人:友人と  
散歩にかかった時間:約40分

私が選んだ「お散歩ピクニックin花園町」は、通りにあるお店でティクアウトし、ベンチに座ってピクニックを楽しむというものです。

私がこのコースを選んだ理由としては、坊っちゃん列車や子規の庭などの、松山特有のものがあったからです。私は愛媛県外出身なので、あまりこれに馴染みがありませんでした。この散歩プログラムを通して松山ならではのものに触れられたらいいと思い、このコースを選びました。




まず、私は通りにあるお店「センマルトル」でケーキを購入し、それをベンチに座って食べました。本来なら坊っちゃん列車を見る能够時間があるのですが、今は土日祝しか運行しておらず、私は平日に訪れたので見ることができませんでした。また、おすすめされているポイントとして、花園町の様々な植物に触れられるということがありました。実際に植物に注目してみると、本当にいろいろな種類のものがあり、どれも綺麗に維持されていました。今まで植物に注目して花園町通りを通ったことがなかったですが、今回初めて意識してみて、新しい発見ができたのでよかったです。私が特に印象に残った植物はアガパンサスです。開花時期ではなかったので、花が咲いているところは見られなかったですが、聞いたことのない植物名だったので印象に残りました。アガパンサスの花言葉は「恋の訪れ」だそうです。このように目に付いた植物の花言葉を調べながら散歩するのも面白いと思いました。




おすすめポイント以外に、私が以前から気になっていたハンバーガー店「SAPP BURGER」にも行きました。本格的なハンバーガーを食べたのは

実践レポート (UDCM ホームページより一部抜粋)

### 3) 提案

1人や少人数での来街で楽しめる、また3密を回避してゆったりくつろげる屋外空間やテイクアウトしたものを片手に滞留できる場所等、花園町通り周辺エリアの魅力をUDCM公共空間利活用チームに所属する大学生スタッフと一緒に『おすすめの立ち寄りスポットと散歩・回遊コース』として地図アプリ（グーグルマップ）に全7コースをとりまとめ、提案した。

また、愛媛県内の感染状況が落ちていた9月には学生スタッフによる実践レポートを取り組み、提案の情報発信に注力した。



フライヤー

UDCMお散歩プログラム

- 【図01】お散歩ピクニック in 花園町**
- 【図02】コロナ疲れに癒しを！おひさまピクニック**
- 【図03】花園町通りで空きコマランチ**
- 【図04】市役所地下広場の新しい使い方！**
- 【図05】花園町通り周辺テイクアウト MAP (参考)**
- 【図06】お散歩ピクニック in 花園町 お散歩コース**
- 【図07】コロナ疲れに癒しを！おひさまピクニック**

インターネットで閲覧可能な提案内容

詳しくは、UDCMホームページ内の提案ページ (<https://udcm.jp/project/sanpo/>) をご覧ください

## (3) 路上利用プロジェクトの立ち上げ・実施支援

### 1) 経緯

COVID-19 の影響に対応する取り組みとして 2020 年 6 月 5 日に国土交通省から「沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱い（2020 年 11 月 30 日まで \*1 の緊急措置）」が発表された。

\*1 2020 年 6 月 5 日発表当時の期限

この緊急措置は、沿道飲食店等の路上利用について地方公共団体と地域住民・団体等が一体となって取り組む場合、道路占用の許可基準が緩和されるという内容である。申請して認められれば、参加沿道店舗は認められた路上利用範囲を守り、周辺清掃へ協力する等、適切な路上利用のための日常管理に取り組むことを条件に、沿道店舗が店前の路上で感染対策を目的にテイクアウト等の販売やテラス営業等を行うことが可能になるというものである。

許可の基準が緩和されたとはいえ、条件をクリアするに「関係者との協議」や「取り組み体制づくり」、「申請の手続き等」を行う必要がある。そこで UDCM では本プロジェクトを立ち上げ、沿道事業者がこの緊急措置を活用し、テイクアウト等の販売やテラス設置など道路上の営業（路上利用）を行うにあたっての課題等を検討・整理すること、また活用を希望する地域団体等に対して、実施に向けて支援することに取り組んだ。

UDCM が整理した路上利用課題は次の 3 つである。

国土交通省

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様へ  
 地方公共団体等と連携して申請すると  
**テイクアウトやテラス営業などのための  
道路占用の許可基準を緩和します**


 イメージ（在実績より提供）

**今回の緊急措置のポイント**

<b>内容</b>	① 新型コロナウイルス感染症対策のための暫定的な営業であること ② 「3密」の回避や「新しい生活様式」の定着に対応すること ③ テイクアウト、テラス営業等のための仮設施設の設置であること ④ 施設付近の清掃等にご協力いただけること
<b>主体</b>	地方公共団体又は関係団体 <sup>*1</sup> による一括占用 <sup>*2</sup> ※ 1 地元関係者の協議会、地方公共団体が支援する民間団体など ※ 2 個別店舗ごとの申請はできません。 お住まいの地方公共団体等にご相談ください。
<b>場所</b>	道路の構造又は交通に著しい支障を及ぼさない場所 ※ 歩道上においては、交通量が多い場所は3.5m以上、その他の場所は2m以上の歩行空間の確保が必要です。 ※ 沿道店舗前の道路にも設置可能です。
<b>占用料</b>	<b>免除</b> （施設付近の清掃等にご協力いただいている場合）
<b>占用期間</b>	令和2年11月30日まで

**【お問い合わせ】**  
 国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室 占用許可担当  
 ☎ 03-5253-8481 (直通) FAX: 03-5253-1616

飲食店等向けリーフレット（出典：国土交通省）

#### 【路上利用の課題】

- ・申請主体となり、取り組みをマネジメントする組織が必要であること
- ・申請主体である組織と、実際に日常的に椅子等を出し入れする参加店舗とのコミュニケーション等がとれる体制づくりが必要であること
- ・地域の事情を盛り込み、新しい生活様式を踏まえた取り組みにあたってのルール作りが必要であること

## 2) まつやま路上利用プロジェクト in 銀天街

前述の緊急措置について活用の希望があった商店街等との取り組み『まつやま路上利用プロジェクト in 銀天街』の概要、体制などを紹介する。

UDCMは、事業主体である2つの商店街と地元のまち会社と協力して「実施にあたってのルールブック作り」や「各関係者との協議等」の実施支援に取り組んだ。

本取り組みを通じて感じた課題は、「商店街が組織として取り組むこと=たくさんの人を集めためのイベント・催し事と捉えられがちであること」、「日常的な取り組みに対しての参加意識が高くなかったこと」である。前者は、今回取り組んだ商店街が毎夏に露店が密集して立ち並ぶ夏祭りを開催している地域であつたことから、商店街の外部だけでなく、内部関係者からも様々な思惑や意見があがり、「取り組みをマネジメントする組織のメンバー自身にマネジメントのための合意形成ノウハウや、高いコミュニケーション能力が求められる」場面に何度も遭遇した。後者については、店舗を対象とした意識調査を今後実施し、不参加の決め手や要因等について、明らかにしたいと考えている。

### 【プロジェクト概要】

#### 期間：

2020年8月1日（土）～10日（月・祝）

#### 時間：

各日13時～20時の間

（左記の時間内で、参加店舗が設置可能な時間に実施）

#### 場所（範囲）：

銀天街商店街（アーケード内）

#### 事業（申請）主体：

松山銀天街第一商店街振興組合、

松山銀天街商店街振興組合

#### 協力：

株式会社まちづくり松山、

松山アーバンデザインセンター

#### 参加店舗：

約25店舗

#### 主な路上利用の内容：

店先（路上）にテイクアウトブースや商品棚等を設置



取り組みの様子（物販店前）



取り組みの様子（飲食店前）

### 3) プロジェクトの情報発信

取り組み事例の概要をウェブページにまとめ、SNS活用や市と連携した情報発信をおこなうことにより、まちへの還元とさらなる活用を図ろうと試みた。実際に、市内の商店街や県外の自治体からプロジェクトや取り組み事例について問い合わせを受けたが、市内で実施に至った地域はなかった。

また、松山のまちなかでは、これまで既存の枠組みの中で、まちなかでの居場所づくりや日常的な滞留を促すことを目指した路上利用の取り組みが実施されている。前節の「花園町オープンテラス」も、緊急措置ではなく既存の枠組みの中で申請手続きをおこない実施している。そういう情報をウェブページに整理して紹介することで、一時的な催しではなく、日常的な取り組みであること、気軽に誰もが利用できる空間を、まちなかに作ろうとしていることや、そういう空間がまちにあることの楽しさや価値等を広めようと考えた。



フライヤー

(2020年7月25日制定)  
(2020年7月31日版)

#### 2. 「まつやま路上利用プロジェクト in 銀天街」の参加ルール

参加ルールは…  
「まつやま路上利用プロジェクト in 銀天街」に参加する沿道店舗が守るルール  
(内容)です

参画店舗は、本ルールに同意したものとみなします。必ず内容をご確認ください。各ルールの詳細は、下記に記載している紙面ページをご覧ください。

沿道の商業地や遊歩空間、商業空間等において、お臺場駅の移動やアライ中止が必須であると事業主体（主に飲食や小売業者）が判断した場合は、運営から感染拡大抑制・対応していただきたい。川が一、園田町から感染者の拡大により、クラスター発生が危惧されると想定される場合に力をいれています。また、感染の拡大防止目的に営業所が必要と判断した場合は、営業者が考えられる場所を公表する義務があります。

**ルール1) 濟旨や参加店舗の役割を理解した上で取り組みます**

- ▶1. 「まつやま路上利用プロジェクト in 銀天街」の概要（1ページ）参照
- ▶3. テラス管理（沿道参加店舗）の役割・取り組み内容（3ページ）参照

**ルール2) 適切な日景管理を行います**

- ▶4. テラスの日常管理・感染対策（4・5ページ）参照

**ルール3) 沿道の交通安全に配慮します**

- ▶4. テラスの日常管理・感染対策（4・5ページ）参照

**ルール4) 感染症防止対策を徹底します**

- ▶4. テラスの日常管理・感染対策（4・5ページ）参照

**ルール5) 事業主体に協力します**

- ▶1. 「まつやま路上利用プロジェクト in 銀天街」の概要（1ページ）参照
- ▶3. テラス管理（沿道参加店舗）の役割・取り組み内容（3ページ）参照

2

協力して作成したルールブック（一部抜粋）

## まつやま路上利用プロジェクト

2020年度に取り組む『まつやま路上利用プロジェクト』は、新型コロナウイルス感染症の影響に対応する取り組みとして2020年6月5日に国土交通省から発表された「沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱い(2020年11月30日までの緊急措置)」を活用した、松山アーバンデザインセンター(UDCM)と連携団体によるプロジェクトです。



国土交通省から発表されたこの緊急措置は、沿道飲食店等の路上利用について地方公共団体と地域住民・団体等が一体となって取り組む場合、道路占用の許可基準が緩和されるという内容です。申請して認められれば、参加沿道店舗は認められた路上利用範囲を守り、周辺清掃へ協力する等、適切な路上利用のための日常管理に取り組むことを条件に、沿道店舗が店前の路上で感染対策を目的にテイクアウト等の販売やテラス営業等を行うことが可能になります。



この緊急措置により許可の基準が緩和されたとはいえ、条件をクリアするために関係者との協議や取り組み体制づくり、申請の手続き等を行う必要があります。そこで本プロジェクトでは、沿道事業者の皆さまがこの緊急措置を活用し、テイクアウト等の販売やテラス設置など道路上の営業(路上利用)を行うにあたっての課題等をUDCMとして検討・整理すること、また活用を希望される地域団体等に対して、実施に向けて支援を行うことを目的としています。

### 『まつやま路上利用プロジェクトin銀天街』

松山市内で上記緊急措置を活用した最初の取り組みである『まつやま路上利用プロジェクトin銀天街』の概要、体制などを紹介します。  
UDCMは、株式会社まちづくり松山と協力して、実施にあたってのルールブック作りや各関係者との協議等に取り組みました。

路上利用プロジェクトのウェブページ（一部抜粋）  
(<https://udcm.jp/project/rojou/>)

## (4) 屋外空間でのイベント開催手続きの提案

### 1) 経緯

まつやま路上利用プロジェクトに取り組む中で、日常的な路上利用だけでなく、イベント開催時のことについても問い合わせや相談をいただくようになった。

相談内容等を聞き続ける中で、これまで商店街などがおこなう催し・イベント事には「人をたくさん商店街やまちに集めて賑わい現象をつくる」といった表面的な効果があったが、それとは別に「イベント事の準備や打合せを通じて、商店街やまちを盛り上げたい人たちの意見を交わす機会やバランスを保つ」というまでの内面的な効果も持ち合わせているように感じた。COVID-19 の出現により、これまでと同じ様式のままのイベント事を今すぐ開催できないのは明白であり、UDCM としても考えを整理する必要があった。

そこで、市内の屋外空間（広場・道路等のオープンスペース）において、COVID-19 感染予防対策の実施と良好な空間利活用の両立を目指すことを目的にした『屋外空間でのイベント開催に向けた感染予防対策検討の手引き』を作成した。

### 2) 提案

作成・提案にあたり、イベント主催者が、自身が開催するイベントにおける対策内容を検討するための参考資料として活用することを想定し、基本的な考え方を提示した上で、取り組むべき基本事項をそれぞれに整理した。

巻末には屋外空間でのイベント主催者向け「新型コロナウイルス感染予防対策チェックシート」を掲載した。「屋外イベントにおける感染予防対策」と「良好な空間利活用方法」の両立するための検討事項をチェックリスト化したものである。

詳しくは、UDCM ホームページ内の手引きをご覧いただきたい。（参考：<http://udcm.jp/category/news/>）

#### 【イベント開催における基本的な考え方】

##### (1) 開催判断の基本的な考え方

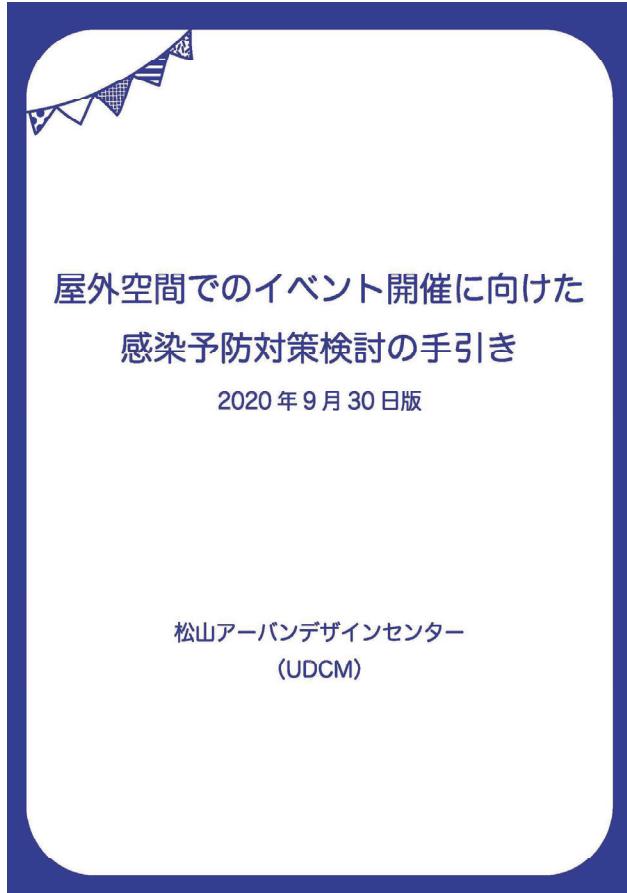
下記1) 及び2) を満たす必要がある。

- 1) 「本手引きにおけるイベント開催要件」を満たした状況下であること
- 2) イベント開催場所となる屋外空間周辺の状況を主催者が把握し、周辺関係者・住民等の同意や理解を得られる状況下であることを主催者が確認すること

##### (2) 感染予防対策の基本的な考え方

下記1) ~4) について主催者が検討を行い、具体的な対策内容を決定する必要がある。

- 1) イベント参加者及び関係者の体調等の確認を含め、人が集まる場における適切な感染予防対策を実施すること
  - ①マスク着用等による飛沫感染予防
  - ②手指消毒による接触感染予防
  - ③体調不良の方や発熱がある方への対応
- 2) 3密（密閉空間・密集場所・密接場面）等、集団感染発生リスクが高い状況を回避すること
  - ①3密を回避するためのイベント参加者の人数制限
  - ②十分な対人距離を確保するためのイベント会場レイアウトと運営
- 3) 感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力を行うこと
  - ①感染発生時の参加者への確実な連絡
  - ②行政機関による調査への協力
- 4) その他、イベントの内容毎に追加で対策を講じること



作成・提案した手引き（表紙）

**新型コロナウイルス感染予防対策チェックシート  
(屋外空間でのイベント主催者向け)**

記入日： 年 月 日  
記入者氏名：

**事前検討・準備時**

イベント開催要件を満たしている  
 周辺関係者・住民等に事前周知を行い、イベント開催内容等について同意や理解を得た  
 イベント開催にあたって感染予防対策を作成した  
 イベント・参加者及び関係者の行動等の確認等の確認を含め、人が集まる場における適切な感染予防対策を定めている  
　　 マスク着用等による飛沫感染予防  
　　 手指消毒による接触感染予防  
　　 体調不良の方や熱がある方への対応  
　　 3密（密閉空間・密集場所・密接場面）等、集团感染発生リスクが高い状況を回避する方法を定めている  
　　 3密を回避するためのイベント参加者の人数制限  
　　（範囲： 、制限方法： ）  
　　 十分な対人距離を確保するためのイベント会場レイアウトと運営方法  
　　 感染発生時の参加者の確実な連絡体制  
　　 イベント種別に応じた追加対策（参考資料： ）

上記対策内容をイベント運営スタッフ及びイベント参加者に事前に周知徹底した

**イベント設営時**

全てのイベント運営スタッフ（以下「主催者」）の体調（症状がないこと）を確認した  
 主催者はマスク（又はフェイスシールド）を着用し、対人距離（最低1m）を保ち設営を行った  
 事前検討の位置に、手指消毒液を設置した  
 事前検討の位置に、対人距離確保のための滞留者向け足元印（マーク）を設置した  
 体温計（非接触型が望ましい）を検温ブースまたはイベント本部等に設置した  
 LINE 非対応者を想定した個別の連絡先記入シートと個人情報取り扱い規則  
 対策内容を記載した裏封筒に記載用チラシやポスター、イベント当日用周知看板類  
 当日用スタッフ体温管理チェックシート

**イベント開催中**

参加者に手指消毒を（消毒液設置場所で呼びかける等）徹底させた  
 体調不良者の参加見合せを呼びかけ、申し出があった参加者の検温等を実施した  
 参加者のマスク着用（又は口元をタオルで覆う飛沫感染予防をしていること）を確認した  
 参加者等が対人距離（最低1m）を保っていること（足元印に従っていること）を確認した  
 事前に設定した滞留者人数を超えないよう人数制限（滞留者への説導等）を行った  
 滞留スペースのイス・テーブル等、共用で使用する備品類の消毒を了ました  
 えひめコロナお知らせネット（LINE）を活用し（LINE 非対応者には個別に連絡先を確認し）、又は個別に参加者の連絡先を確認し、感染発生時の参加者への確実な連絡体制を整えた

**撤収作業時・イベント終了後**

主催者はマスク（又はフェイスシールド）を着用し、対人距離（最低1m）を保ち撤収を行った  
 主催者が個別に確認した参加者の連絡先（個人情報）の取り扱いについては、主催者の責任において一定期間（2週間程度）適切に管理し、適切に処理する  
 感染が発生した場合の行政機関等による調査協力に備え、実施した予防対策内容を明示した資料や、イベント開催中に掲示していたえひめコロナお知らせネットの登録番号や、イベント運営スタッフや個別に連絡先を把握したイベント参加者の異常等を整理した

11

作成・提案した手引き（チェックシート）

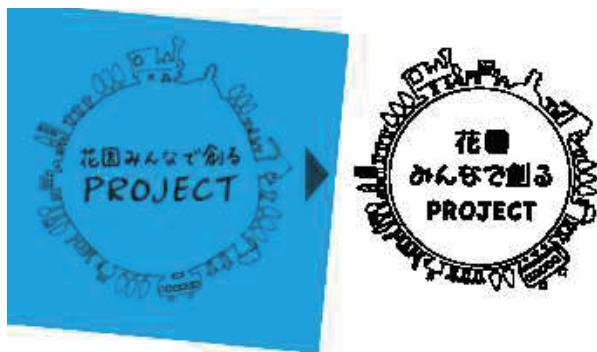
## (5) まつやま花園日曜市の開催支援

### 1) 経緯

昨年度、地元協議会メンバーから、新しいイベントの構想について伺った。地元としては、既存マルシェイベントとは別に「運営を委託業者に頼らず、出店者と地元有志で担う体制を作りたい」、また「イベント開催が目的ではなく、イベント出店者と沿道の連携企画をきっかけに沿道店舗の存在を知ってもらい、店舗や通りのファンを増やすことを主目的とした新しいイベントを作りたい」という意向を伺っていた。それが今年度、地元協議会が取り組む『花園みんなで創るプロジェクト』の1つの事業として、10月から毎月第4日曜日に開催<sup>\*2</sup>されることになった『まつやま花園日曜市』である。

UDCMとしては、マルシェに加え、そういった主旨のイベントが増えること、何より地元が主体で沿道店舗のために公共空間の利活用を進めることは望ましい状況であると捉え、地元主体の開催に向けての支援と、企画協力をおこなった。

\*2 2021年1月～3月は感染拡大状況を受け開催を中止した



提供したロゴ原案（左）と最終決定ロゴ（右）

### 2) 開催支援

地元主体の開催にあたり、次の5点についての支援と後述する企画協力をおこなった。

#### 【支援内容】

- ・各種手続き（道路占用、使用等）ノウハウの提供
- ・COVID-19 感染予防対策と空間利用の両立についての助言（前節の手引き提供等）
- ・プロジェクトのロゴマーク原案の提供
- ・日曜市プログラムやサイン類のデザイン補助
- ・移動する建築（まちを旅する4つの屋台）の展開マニュアル作成と日曜市当日の展開レクチャー



デザイン補助を行ったサイン類

## 4 : 移動の仕方・注意点

p.6



### 移動の際の注意点

- 木のタイヤ(②)は胴体に対してまっすぐにしか動かせないので、舵取り用のタイヤ(③)を左右に動かし、方向転換をしてください。
- 移動の際は必ず大人2人以上、できれば4人で運んでください。屋台は重さ80kgほどです。転倒の際は怪我につながりますので気をつけてください。



### 作成した屋台の展開マニュアル（一部抜粋）



展開レクチャーの様子

### 3) 共同企画 SNS「写真コンテスト」

UDCM と地元協議会が共同でおこなう情報発信企画として、第2回まつやま花園日曜市(11月22日)以降、SNS 上で「写真コンテスト」を実施することになった。地元協議会は賞品準備や地元広報を、UDCM は企画づくりと運営、そして応募作品の展示会をもぶるラウンジでおこなった。



表彰式の様子



応募要項兼フライヤー（表面）

#### 【まつやま花園日曜市 SNS「写真コンテスト】

##### テーマ：

『いよね！花園町通り！』

##### 募集期間：

花園日曜市開催当日中

##### 応募方法：

花園みんなで創るプロジェクト

(<https://hanazonodori.com/>) の SNS アカウントをフォローし、応募用ハッシュタグ # いよね花園 を付け、当日撮った写真を投稿

- ・花園 project 賞：毎月 1 名、実行委員会が選定
- ・花園店舗賞：毎月 1 名、その月の担当店舗が選定
- ・アーバンデザイン賞：毎月 1 名、UDCM が選定

##### 主催：

花園みんなで創るプロジェクト実行委員会

##### 共催：

松山アーバンデザインセンター

##### 協賛：

花園通り店舗 ラルキー、黒潮亭、焼鳥ダイニング鈴木、炉端と酒ししまる、SAPP BURGER

**応募方法** 花園みんなで創るプロジェクトの SNS アカウントをフォロー (Twitter か Instagram をオフロー、または Facebook でいいね！) し、撮影した写真に応募用ハッシュタグ # いよね花園 を付けて投稿。コメント不適、チラシ裏面/SNS の QR コードあり。

#### 募集要項

##### 応募作品の要件

- (1) 撮影日・撮影場所  
花園日曜市開催中に、花園町通りで撮影された写真であることを。
- 立入り禁止区域や許諾が得られない軽自動車に立ち入った撮影、個人のプライバシーを侵害するような写真での撮影は叶いません。

- (2) 被写体  
花園町通りの地域資源、新たな魅力の発見につながる花園日曜市開催中の風景、街並み、商品・製品等を撮影した写真であること。

- (3) 撮影者等  
応募者が撮影し、著作権を有している写真に限ります。

- ① 応募者は、花園日曜市開催後 2 週間以内に花園みんなで創るプロジェクト SNS 等にて応募します。
- ② 応募作品は、花園町通り開催中に花園町通りで撮影された写真となります。撮影時に出でた場合は、賞品の発送が出来ません。予めご了承ください。
- ③ 応募者の個人情報は、本コンテストに係る事務のみに使用します。

- ④ 応募作品についての問い合わせにはお答えできません。
- ⑤ 応募作品については、アカウント名、コーデー名と併せて、花園みんなで創るプロジェクト SNS 等で公表させていただきます。
- ⑥ 募集結果についての問い合わせにはお答えできません。

##### その他の

- 応募者の SNS 上での投稿内容や、それに勝るるトランブラーに関する、当該者に一切責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 作品の公募に関する一切の費用は応募者の負担とします。
- 本コンテストは、もと SNS が後援、支持、運営に関与するものではありません。
- 当該募集中の内容については、事前に予告なく変更することがあります。

主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会  
内訳: 松山アーバンデザインセンター (UDCM)  
内訳: 花園日曜市 ラルキー、黒潮亭、焼鳥ダイニング鈴木、炉端と酒ししまる、SAPP BURGER

#### 応募要項兼フライヤー（裏面）

## (6) まちの風景や魅力等を発信する小冊子発行

### 1) 目的

花園町通りの利活用の様子、UDCMの取り組み内容等をまとめた小冊子シリーズを発行した。制作・発行の目的は次の3点である。

### 2) 内容

気軽に手に取ってもらいやすい小冊子にするため、形状や紙面構成を工夫した。小冊子が分厚くなりすぎないよう頁数は12頁を基準とした。また、主に写真を掲載し、解説文などは最小限に絞り、文章量が多くない、とつつき易い紙面とした。

今年度は「歴史写真編」と「利活用編」の2冊を発行し、もぶるラウンジを中心に配布を開始した。今後もシリーズを展開していきたいと考えている。

#### 【目的】

- ・花園町通りに関する歴史・資料等の収集・整理
- ・花園町通りをはじめ公共空間の利活用に関する興味・関心、機運醸成づくり
- ・UDCMの取り組み内容の広報及びまちづくり活動にかかる、機運醸成づくり



第1弾「歴史写真編」小冊子の表紙・裏表紙



第2弾「利活用編」小冊子の表紙・裏表紙

## (7) 今後の課題

今年度の活動を振り返ると、模索しつつも公共空間の利活用につながる取り組みをおこなえたことは成果と言えよう。一方で、取り組みと並行した調査・分析面が課題である。まつやま路上利用プロジェクトの取り組み事例において、商店街の状況調査等を実施したが、調査結果の分析・公開にまで至っていない。公共空間の利活用を進める上で、取り組みの検証と課題把握は必要不可欠である。UDCM 各プロジェクトチームとの連携を強化するなど、課題解決に向けて尽力していきたい。また、引き続き花園町通りの利活用と賑わいづくりの体制構築に貢献していきたい。

Chapter

# 05

## もぶるラウンジの運営

UDCM のオフィスに併設されている「もぶるラウンジ」は、休憩やトイレ利用に加え、まちづくりに関する書籍・雑誌等の閲覧、まちづくり活動等を中心とした専用利用ができるスペースである。

昨年度までは松山市からの受託業務（松山市中心市街地賑わい再生社会実験）の一環として運営していたが当該社会実験の終了に伴い、今年度より UDCM の自主運営に切換った。目に見えないウイルスの存在と向き合いながら取り組むこととなった自主運営 1 年目のもぶるラウンジを振り返る。

自主運営化に伴い、2020 年度の運営方針を「まちづくり拠点としてこれまでの利用を受け入れた日常管理を行い、まちづくり活動のためのバックヤードとしてより機能的なスペースにするとともに、市民等が気軽に入り、交流できる開かれた空間づくりを図ること」とした。本年度、方針に基づき取り組んだ次の 3 点について、次節以降で詳しく振り返る。

- ・ COVID-19 に対応した日常管理
- ・ 連携企画等を通じた情報発信
- ・ 屋外スペース整備

# (1) COVID-19 に対応した日常管理

## 1) 感染予防対策

COVID-19 の感染拡大状況、特に 2020 年 3 月 31 日の県内初となるクラスター発生の発表を受け、4 月 1 日からもぶるラウンジ（以降「ラウンジ」）を臨時休館とした。休館中には、再開に向けて情報収集や検討を進め、感染予防対策内容を追加した運営マニュアル及び利用案内の更新をおこない、対策を講じながら段階的にラウンジ利用を再開した（詳細な時系列は p24-25 の図を参照）。

一般利用の再開に向けて、設けた対策は次のとおりである。



利用者への案内板

【利用者の対策内容】
・手指消毒
・マスク着用
・十分な対人距離の確保
・体調不良や発熱時の利用自粛
・えひめコロナお知らせネットへの登録

【施設・スタッフの対策内容】
・利用者への案内板の設置（対策内容）
・手指消毒設備の設置
・消毒液を使用した毎日の清掃
・定期的な換気
・加湿器の設置・稼働
・人数制限（同時利用者数のコントロール）
・受付へのアクリル板の設置
・えひめコロナお知らせネットの導入
・スタッフのマスクやフェイスシールドの着用
・スタッフの勤務前の体調確認
・その他必要備品の完備（予備マスク、検温器）



手指消毒設備や利用者への案内板の設置

専用利用の申請受付再開に向けて、追加した専用条件は次のとおりである。

また専用利用許可申請書には「専用が許可されば場合におこなう予定のイベント等の内容を記入する欄」、「感染予防対策を講じ、対策チェックシートを提出することへの同意欄」、そして「最大同時専用人数の事前申請欄」を追加し、施設管理者として専用利用者の利用内容を事前に把握、確認をおこなった（利用案内や専用利用許可申請書等の詳細は、もぶるラウンジホームページを参照）。

もぶるラウンジホームページ：

<http://udcm.jp/moburulounge>

### 【専用条件（感染予防対策項目のみ抜粋）】

- ・参加者の体調等の確認を含め、人が集まる場における適切な感染予防対策を実施すること
- ・3密（密閉空間・密集場所・密接場面）等、集団感染発生リスクが高い状況を回避すること
- ・感染が発生した場合の参加者への確実な連絡体制を整えること
- ・感染が発生した場合は行政機関による調査への協力をを行うこと
- ・飲食を伴うイベントは行わないこと
- ・対策チェックシートを専用当日、受付スタッフに提出すること

**新型コロナウィルス感染予防対策チェックシート**  
※下記内容を実施し、確認印口印してお書きください。専用料金、累計利用人数（主催者・参加者）も記入の上、ご提出ください。

**専用開始・イベント準備時**

代表者を含む全員のイベント運営スタッフ（以降「主催者」）は、入館時に手指消毒を行った。  
 主催者の体調（発熱、咳・咽頭痛等の症状がないこと）を確認した。  
 主催者と、濃厚接触者と判断された（専用当日現在において）県等から自宅待機要請を受けた者がいないことを確認した。  
 主催者に、特警警戒都道府県、感染拡大注意都道府県及び海外から愛媛県に戻り（又は入り）14日以上経過していないかいないことを確認した。  
 主催者はマスクを着用し、対人距離（最低1m）を保ち設営等の準備作業を行った。  
 可能な限り2方向の窓を開けた状態、又は30分に1回（数分間程度）以上2方向の窓を開けて換気を行なながら、設営等の準備作業を行った。  
 使用備品だけでなく、机・椅子・ドアノブ等、簡便的に接触する可能性があるものは消毒した。  
 参加者同士が対人距離（最低1m）を確保できる会場設営（レイアウト）を、入出⼝からの動線にも配慮した上で行った。  
 参加者向け注意事項を記載したポスター等を用意し、開催における注意事項の周知を行った。

**イベント開催中**

参加者に入退場時の手消毒を徹底させた。  
 参加者の体調（発熱、咳・咽頭痛等の症状がないこと）を確認した。  
 参加者に、濃厚接触者と判断された（専用当日現在において）県等から自宅待機要請を受けた者がいないことを確認した。  
 参加者に、特警警戒都道府県、感染拡大注意都道府県及び海外から愛媛県に戻り（又は入り）14日以上経過していないかいないことを確認した。  
 参加者がマスクを着用し、対人距離（最低1m）を保っていることを確認した。  
 えみのひかるを知らせて（LINE）を活用し、（LINE非対応者には個別に連絡先を確認し、感染発生時の参加者のへの適切な連絡体制を整えた。  
 可能な限り2方向の窓を開けた状態、又は30分に1回（数分間程度）以上2方向の窓を開けて換気を行なないながら、イベントを行った。  
 同時利用人数（主催者と参加者の合計）が10名前後になるよう人数制限を行った。  
 主催者が説明書により対面して発言する場合は、参加者との距離を十分確保、又はソーシル板やビニールカーテン等を設置した。

**専用終了・撤収作業時**

飲食を伴うイベントは行わなかった。  
 土産物はマスクを着用し、対人距離（最低1m）を保ち撤収作業等を行った。  
 可能な限り2方向の窓を開けた状態、又は30分に1回（数分間程度）以上2方向の窓を開けて換気を行なながら、撤収作業等を行った。  
 使用備品だけでなく、机・椅子・ドアノブ等、簡便的に接触した可能性があるものは消毒した。  
 主催者が個別に確認した参加者の連絡先（個人情報）の取り扱いについては、主催者の責任において一定期間（2週間程度）遅延に管理し、適切に処理する。  
 感染が発生した場合は行政機関等による調査に協力する。

累計利用人数（専用料金を支払った専用利用者）をご記入ください。※専用の対象となる同時専用人数ではないです

幼稚 (幼少期)	小学生	中・高生	20代	30～50代	高齢者
男					
女					

記入日： 年 月 日、記入者氏名（専用者氏名）

利用案内（専用李承認申請書の表面）

**もぶるラウンジ専用利用許可申請書（おもて）**

松山アーバンデザインセンター 宮

申 請 者	氏名（又は代表者氏名）  はなその みちこ
活動チーム名（又は所属団体等称等） ※IP スケジュールに登録する名前です。未記入の場合は上記氏名をスケジュールに登録します。  もぶるんるん俳句の会	
電話番号： 089-000-2020 メールアドレス： <a href="mailto:haku.moburu@gmail.com">haku.moburu@gmail.com</a>	

次のとおり「もぶるラウンジ」を専用したいので申請します。

イベント等の名称	※IP スケジュールに登録する名前です。会議・打合の場合は未記入で大丈夫です。  もぶるんるん俳句の会
専用希望口時	専用希望月日： 2020年10月31日（土） 専用希望時間： 10時00分～12時30分 ※イベント開催前の準備と片付け等を含んだ時間をご記入ください。 イベント開催時間： 10時30分～12時00分
専用目的	<input type="checkbox"/> まちづくりやまちへの興味を促すイベント等開催のため <input type="checkbox"/> 市民の交流を促すイベント等開催のため <input type="checkbox"/> 上記に掲載する会議・打合せ実施のため <input type="checkbox"/> その他（ ）
イベント等の内容	※内容が不適切な場合は会場へご連絡や資料整理等で依頼する場合がございます。 花園筋通りに開催する正岡子規の句ごついで待ち寄り、語らう。実際に通りを散策し、句に登場する植物を探す等、いつもどおりの視点で俳句で散歩を楽しむ。
確認事項（同意欄）	<input type="checkbox"/> 「もぶるフリソン利用案内」を確認し、その内容を了承する <input type="checkbox"/> 感染予防対策を実施します（専用終了時には対策チェックシートを提出します）
最大同時専用人数	※最大での名前が開催するラウンジを専用する予定かご記入ください。 イベント等主催者（専用者）： 2名+参加者： 8名=計 10名 ※請書は裏面に続きます

【もぶるラウンジ受付バーコード記入欄】

受付日： 年 月 日	審査日： 年 月 日	連絡日： 年 月 日
対応者：	確認者：	対応者： (電話・メール)

利用案内（対策チェックシート）

## 2) 利用者推移

ラウンジ利用者は、延べ 5,161 人、月平均<sup>\*1</sup>は、約 641 人（前年度の延べ 7,587 人、月平均は約 632 人）である。平日休日共 30 ~ 50 代の利用割合が約半数を占め、前年度と比較すると幼児、小学生、中高生の割合が減少している。ラウンジや前通り等でのイベント開催が見送られる期間もあり、イベント時に訪れていた家族連れ等や、平日の学校帰りに訪れていた小中高生等の利用減少が影響していると推測される。一方、20 代の利用割合は増加している。前年度末に近所に開店した飲食店の影響か、平時に前通りを歩く、そしてラウンジに足を踏み入れ利用する 20 代をよく目にす るようになった。

<sup>\*1</sup> 8 月～3 月までの 8 か月間の利用者数で算出

## 3) 一般利用の動向

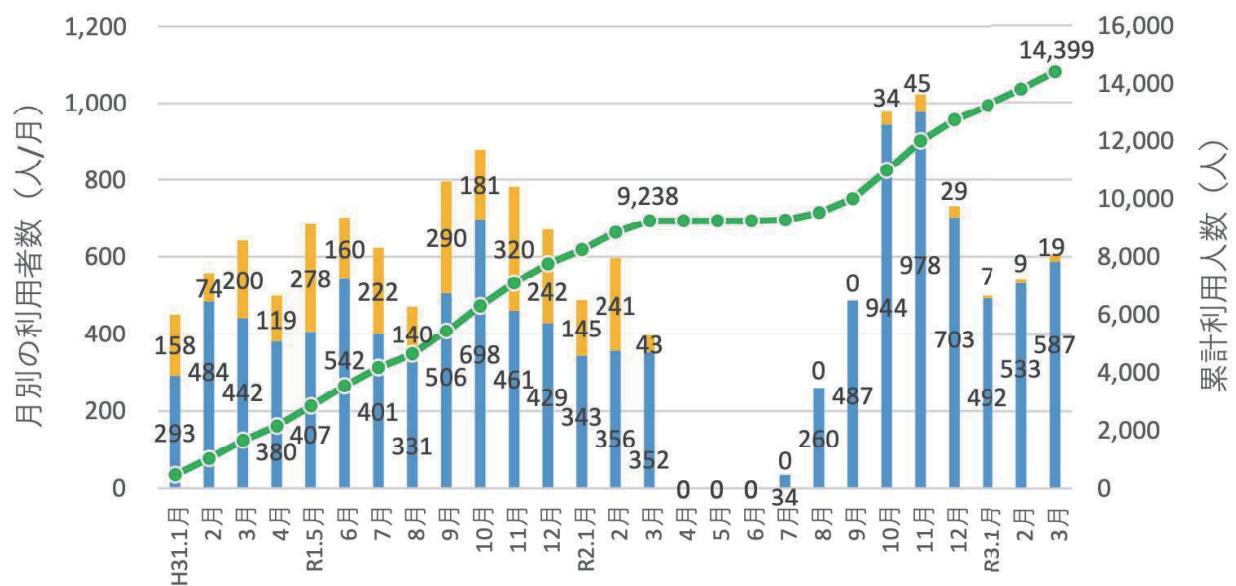
7 月 27 日の一般利用再開後、休憩やトイレ利用、展示物等を閲覧する人等は変わらず居るが、その大半が、個人または家族連れである。コロナ禍前のように友人同士で待ち合わせて会話を楽しんだり、偶然居合わせた人同士で交流に発展したりするような利用行動は、ほとんど見受けなくなった。



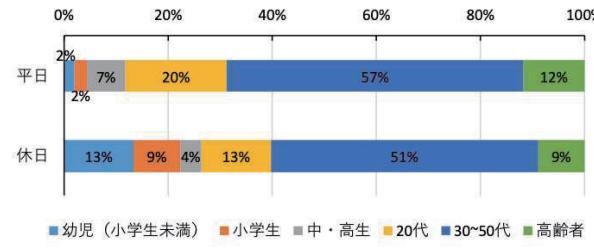
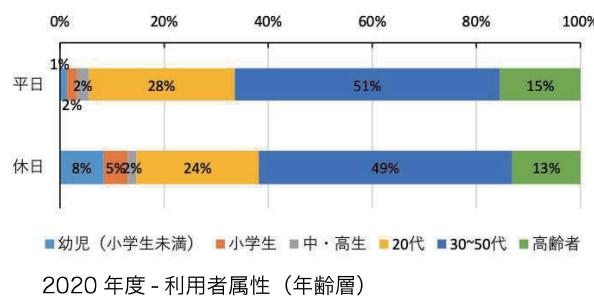
休憩利用している家族連れ



学生と近所の子どもの利用



各月利用者数内訳及び累計利用者数



#### 4) 専用利用の傾向

9月25日から受付を再開した専用利用の申請件数<sup>\*2</sup>は21件で、全て許可された。うち4件は主催者（申請者）からCOVID-19の状況変化を理由にキャンセルの連絡があり、実際に専用利用されたのは17件であった。右表のとおり、半数強が個人、その他が組織・団体等での申請である。「信子おばさんの伊予弁紙芝居」と「写真で巡る報告会」以外<sup>\*3</sup>は、今年度が初めての申請、専用利用であった。ほとんどのプログラムが繰り返し専用利用されており、リピート率の高さが特徴的である。



手作りナチュラルマイコスメ

\*2 本年度、UDCMによる打合せ利用に関しては、

専用利用として扱っていない

\*3 「手作りナチュラルマイコスメ」は前拠点（もぶるテラス）で利用実績があるが、もぶるラウンジでの申請、専用利用は今年度が初めてであった



信子おばさんの伊予弁紙芝居

日時	イベント等名称	申請者	人数
10月10日(土) 13:45~16:00	信子おばさんの伊予弁紙芝居	個人	1
10月25日(日) 10:00~16:00	まつやま花園日曜市本部	花園まちづくりアソビ外協議会 (以降「花園協議会」)	32
11月14日(土) 10:30~13:30	手作りナチュラルマイコスメ	個人	3
11月21日(土) 13:45~16:00	信子おばさんの伊予弁紙芝居	個人	3
11月22日(日) 10:00~16:00	まつやま花園日曜市本部	花園協議会	34
11月28日(土) 14:30~17:00	写真で巡る「弘前近代・現代建築の旅」 報告会	個人	キャンセル
11月29日(日) 13:00~15:00	松山ひよこ短歌会	松山ひよこ短歌会	4
12月12日(土) 10:30~15:00	手作りナチュラルマイコスメ	個人	6
12月19日(土) 13:45~16:00	信子おばさんの伊予弁紙芝居	個人	8
12月27日(日) 10:00~16:00	まつやま花園日曜市本部	花園協議会	29
1月23日(土) 10:30~13:30	手作りナチュラルマイコスメ	個人	4
1月23日(土) 13:45~16:00	信子おばさんの伊予弁紙芝居	個人	3
1月24日(日) 10:00~16:00	まつやま花園日曜市本部	花園協議会	キャンセル
1月30日(土) 10:00~13:00	花園散歩×スマホで写真撮影「お写んば！」	愛媛CATV	キャンセル
1月31日(日) 13:00~15:00	松山ひよこ短歌会	松山ひよこ短歌会	キャンセル
2月20日(土) 10:30~13:30	手作りナチュラルマイコスメ	個人	7
2月27日(土) 13:45~16:00	信子おばさんの伊予弁紙芝居	個人	2
3月7日(日) 13:00~15:00	松山ひよこ短歌会	松山ひよこ短歌会	8
3月16日(火) 13:00~14:00	フラの練習・打合せ	個人	3
3月20日(土) 10:30~13:30	手作りナチュラルマイコスメ	個人	6
3月27日(土) 14:00~16:00	信子おばさんの伊予弁紙芝居	個人	2

専用利用一覧（UDCM の専用利用は除く）

## (2) 連携企画等を通じた情報発信

### 1) 企画展示『花園町の歴史 Vol.1』

花園町通りでのイベント開催の再開にあわせ、UDCM ヴィジョンチームと連携し、花園町通りの歴史に関する年表や古写真等を用いた展示をおこなった。

#### 【UDCM 企画展示『花園町の歴史 Vol.1』】

##### 会期：

2020 年 11 月 22 日（日）～12 月 27 日（日）

##### 概要：

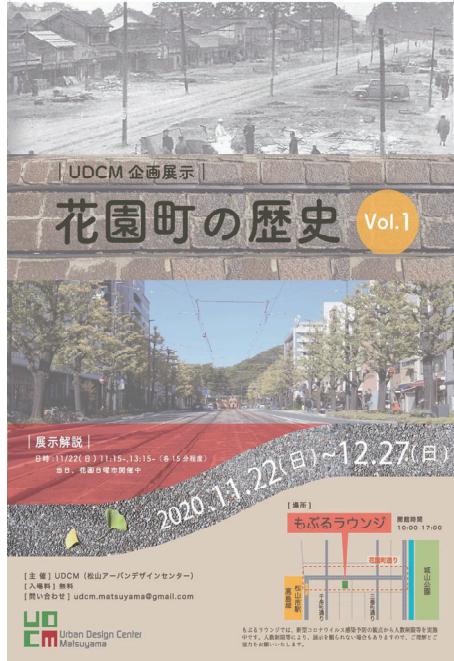
UDCM では花園町の歴史リサーチをスタート。花園町通りは、城下町の建設、駅まちの形成、空襲と戦災復興、そして 2017 年のリニューアルと、様々な歴史を有している。まちの歴史を知ることは、まちの未来を考える上でも重要である。これから更に調べを進め、展示も充実させていきたい。

### 2) 花園町通り商店マップ

UDCM を含めた花園町通り周辺エリアの魅力発信を目的に「花園町通り商店マップ」を作成し、前庭に常設した。作成にあたっては、業種別にレイアウトしたり、店名と共に主な販売物などを表記したり、魅力を伝える工夫をおこなった。



展示の様子



フライヤー



「花園町通り商店マップ」

### 3) その他の連携・協力

#### ①松山ブンカ・ラボ

UDCM とオフィスをシェアする松山ブンカ・ラボが企画協力したプログラムに、サテライト会場として協力した。

#### 「ことばのちから 2020」プログラム ことばのインスタレーション『かえりみちをつくる』

**会期：**  
2020年10月25日（日）～11月29日（日）

**メイン会場：**  
三津浜アート蔵

**サテライト会場：**  
旧濱田医院、UDCM もぶるラウンジ

**制作・運営：**  
NPO 法人シアターネットワークえひめ

**企画協力：**  
松山ブンカ・ラボ



#### ②まつやま花園日曜市

2020年11月から花園日曜市実行委員会とUDCMが共催している「写真コンテスト」への応募作品の展示や、受賞作品のSNS発表等を、UDCM 公共空間利活用チームと連携しておこなった。

#### まつやま花園日曜市写真コンテスト応募作品展示

**会期：**  
2020年11月23日（月）～12月27日（日）  
2021年1月4日（月）～3月31日（水）



#### ③松山防災リーダー育成センター

2020年11月14日（土）に松山防災リーダー育成センターとUDCMが共催した防災まち歩きにて、参加者と一緒に作成した「防災マップ」の展示を行った。

#### 防災まち歩き「防災マップ展示」

**会期：**  
2020年12月17日（木）～12月27日（日）



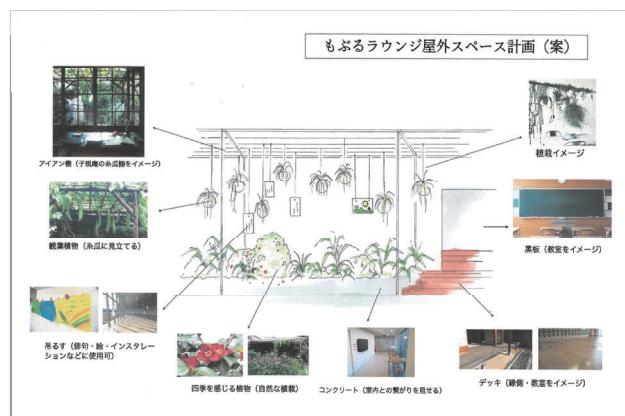
## (3) 屋外スペース整備

### 1) これまでの経緯

前年度、ラウンジの屋外スペースについて議論するデザイン会議を開催した。会議には、花園町通りやラウンジを設計された設計領域の新堀氏と吉谷氏、また、松山在住の建築家、庭師、伊予匠ノ会の方々にお越しいただき、専門家と UDCM スタッフ及び学生スタッフによる空間デザインの議論を一般公開でおこなった。この議論を踏まえ、今年度、運営方針もあるように「まちづくり活動のためのバックヤードとしてより機能的なスペースにするとともに、市民等が気軽に入り、交流できる開かれた空間づくり」を目指すことになった。

### 2) 整備内容

会議で出たアイディアを具現化するため、①前庭、②テラス、③後庭について、庭師の方を中心plexに詳細検討をおこなった。



検討資料



昨年度のデザイン会議の様子



今年度の整備検討会の様子

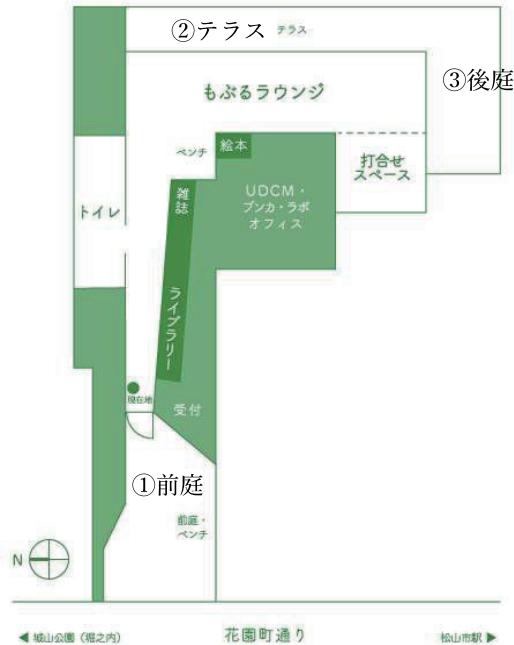
月日	内容
2020.4.30	第1回もぶるラウンジ 学生スタッフミーティング @zoom
2020.5.25	第2回もぶるラウンジ 学生スタッフミーティング @zoom
2020.9.16	第1回もぶるラウンジ屋外スペース整備検討会
2020.9.30	第2回もぶるラウンジ屋外スペース整備検討会
2020.10.7	第3回もぶるラウンジ運営チームミーティング
2020.11.9	もぶるラウンジのキャッチフレーズサイン作業 (1回目)
2020.11.13	もぶるラウンジのキャッチフレーズサイン作業 (2回目)
2020.11.16	もぶるラウンジのキャッチフレーズサイン作業 (3回目)
2020.11.25	もぶるラウンジのキャッチフレーズサイン作業 (4回目)
2020.12.11	もぶるラウンジのキャッチフレーズサイン作業 (5回目)
2021.1.6 - 2.15	もぶるラウンジ整備工事 (コンクリート打設、 ウッドデッキ敷設、収納棚設置)
2021.3.6	もぶるラウンジ植栽作業 (テラス)
2021.3.8	もぶるラウンジ植栽作業 (前庭)

整備に関する活動の一覧

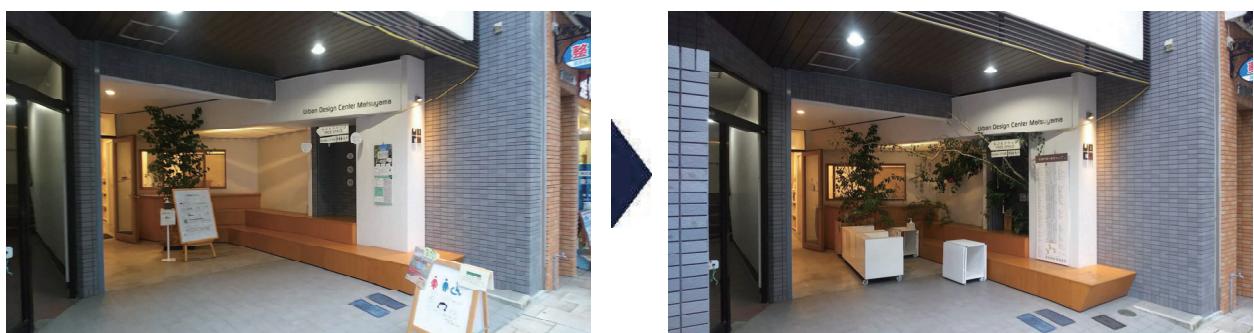
②テラス（左：整備前、右：整備後）



③後庭（上：整備前、下：整備後）



①前庭（左：整備前、右：整備後）



詳細検討には学生スタッフも参加し、整備のための実作業にも可能な範囲で参画した。具体的な整備内容は次のとおりである。

#### ①前庭

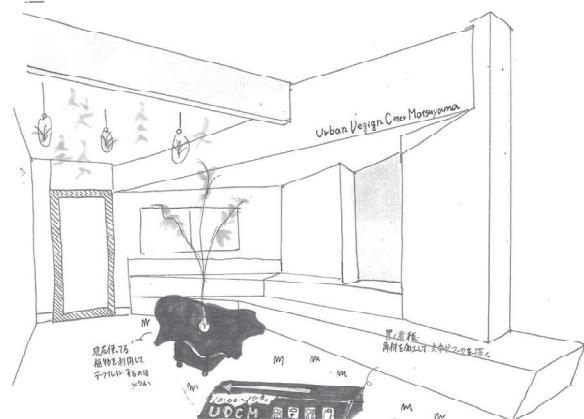
検討段階で抽出された課題 2 点について、それぞれ次の解決策を講じた。

#### 課題 1 入口がわかりにくい 解決策

- ・常設のもぶるラウンジのサインとキャッチフレーズサインをつくる

#### 課題 2 近寄りがたい / 冷たい印象を受ける 解決策

- ・植栽を増やして路地裏への誘いと、木製ベンチとの調和による空間の暖かさを演出する
- ・木製ベンチに合うテーブルを追加し、利便性を向上させる



学生スタッフによる空間デザイン案



学生スタッフによるサイン作り



学生スタッフによる植栽作業（前庭）



モックアップを使用したサインの検討



完成したラウンジのサイン



完成したキャッチフレーズサイン

## ②テラス

中間期には、建具を全て開き、ラウンジ内部と一体的、機能的に使用できるように、また隣の敷地にそびえ立つブロック塀をラウンジ内から眺める対象となるように、次の3点を実施した。

- ・段差緩和のため既存砂利部分にコンクリートを打設し、無機質な空間になりすぎないように、一部はウッドデッキを敷設
- ・ブロック塀前には可動式、固定式両方の植栽ボックスを整備
- ・ラウンジ内から死角になる部分には、前通り等で利活用する道具のための収納棚を設置



専門家によるウッドデッキ工事



学生スタッフによる植栽作業（テラス）

## ③後庭

移動する建築(街を旅する4つの屋台)を軸に配置し、後庭空間自体がラウンジ内から眺める対象となるよう、次の2点のこと取り組んだ。

- ・既存アスファルト部分にコンクリートを打設し、ラウンジ内との段差を緩和
- ・屋台専用のカバーを制作



専門家によるコンクリート工事

## (4) 今後に向けて

COVID-19の感染拡大が懸念される状況が続いている。ラウンジを再び臨時休館にする可能性も否定できないが、いかなる状況においても、まちづくり拠点としての機能強化を図ること、特にまちづくりに関する情報発信について積極的に取り組んでいきたい。

Chapter

# 06

## 情報発信プロジェクト

各種媒体を通じて、UDCM の取り組みに関するこことや松山市のまちの情報について発信している。

今年度は、9月末を持って終了した FM 愛媛のラジオ番組企画「まちラヂ」と、継続プロジェクト及び UDCM によるウェブページの情報発信についての報告を行う。

## (1) まちラヂ

### 1) 取組の概要

2015年から継続しているFM愛媛「まち@ラヂ」は、市民編集部による企画と、月1回の市長インタビューにより、松山のまちづくりに関する情報発信を行なっている。今年度は、計27回の放送を行なった。そのうち、市長インタビューは6回実施した。なお、当番組は2020年9月末にて放送終了となった。

ただ、「松山歴史散歩」という歴史シリーズについては、郊外地区の歴史を掘り下げる目的とした継続企画として実施することになった。次項にその報告を行う。



「秘密ジャニヤイ基地」インタビュー



「松山歴史散歩」収録（坂の上の雲ミュージアム）

回	放送日	内容	ゲスト	インタビュアー
第257回	2020/4/1	野志市長インタビュー Part44- 新玉タウンミーティング -	野志市長	尾崎信
第258回	2020/4/8	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(二の丸史料庭園)	松本館長	樋口時子
第259回	2020/4/15	UDCM新メンバー（吉田英生）紹介	吉田英生	板東ゆかり
第260回	2020/4/22	松山の人にインタビュー（建築家：白石卓央）	白石卓央	板東ゆかり
第261回	2020/4/29	松山の人にインタビュー（選択理論①：山岡美之）	山岡美之	日野順子
第262回	2020/5/6	野志市長インタビュー Part45- 湯築・道後地区タウンミーティング -	野志市長	板東ゆかり
第263回	2020/5/13	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(久谷地区①)	松本館長	樋口時子
第264回	2020/5/20	UDCMの取り組みについて①	板東ゆかり	四戸秀和
第265回	2020/5/27	UDCMの取り組みについて①	四戸秀和	板東ゆかり
第266回	2020/6/3	野志市長インタビュー Part46- 栗井地区タウンミーティング -	野志市長	板東ゆかり
第267回	2020/6/10	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(久谷地区②)	松本館長	樋口時子
第268回	2020/6/17	松山市花園町通りについて	矢野宏道	四戸秀和
第269回	2020/6/24	松山の人にインタビュー（選択理論②：山岡美之）	山岡美之	日野順子
第270回	2020/7/1	野志市長インタビュー Part47- 浮穴地区タウンミーティング -	野志市長	四戸秀和
第271回	2020/7/8	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(松山の川①)	松本館長	樋口時子
第272回	2020/7/15	道後「ひみつジャニヤイ基地」について①	赤松慶隆、伊東進	白石卓央
第273回	2020/7/22	道後「ひみつジャニヤイ基地」について②	赤松慶隆、伊東進	白石卓央
第274回	2020/7/29	松山フンカ・ラボ新メンバー紹介	松宮俊文	四戸秀和
第275回	2020/8/5	野志市長インタビュー Part48- 素鷺地区タウンミーティング -	野志市長	板東ゆかり
第276回	2020/8/12	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(松山の川②)	松本館長	樋口時子
第277回	2020/8/19	UDCM新メンバー（三谷卓摩）紹介	三谷卓摩	四戸秀和
第278回	2020/8/26	毎週土曜日開催の松山花園産直市について	産直市出店者の方々	四戸秀和
第279回	2020/9/2	野志市長インタビュー Part49- 宮前地区タウンミーティング -	野志市長	板東ゆかり
第280回	2020/9/9	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(最終回これまでの振り返り)	松本館長	樋口時子
第281回	2020/9/16	坂の上の雲ミュージアム展示について	松本館長	樋口時子
第282回	2020/9/23	松山の人にインタビュー（ユーファーム：芳野愛子）	芳野愛子	平林いさこ
第283回	2020/9/30	まちラヂ最終回（これまでの振り返り）	片岡由香、日野順子	四戸秀和

「まち@ラヂ」放送記録（2020年度）

## (2) 松山歴史まちあるき

### 1) 企画概要

前述のFM愛媛「まち@ラヂ」では、坂の上の雲ミュージアム松本総館長が松山の歴史を語る「松山歴史散歩」シリーズを企画し、計33回の放送を行ってきた。「まち@ラヂ」番組終了後に、この歴史語りシリーズの続編番組として、「松山歴史まちあるき」の企画を始めた。

過去の「松山歴史散歩」の主な対象は中心市街地であったため、本企画では郊外を対象として地域の歴史を掘り下げるこことした。またこれまで松本総館長によるレクチャー形式（音声のみ）であったが、歴史に関する地域の風景や住民の声をアーカイブすることを主な目的とし、映像作品としての制作を検討した。

この取り組みは、ディレクターの四戸、プロジェクトディレクター（坂の上の雲ミュージアム総館長）松本、アシスタントディレクター日野、学生スタッフ6名により実施した。

### 2) 今年度の取り組み

今年度は、坂の上の雲ミュージアムと企画趣旨の共有を行い、事前調査として余土、石井、久米の地域住民へのヒアリングを行なった。またインタビューの結果を踏まえ、試作品として余土地区を対象とした映像作品制作を行なった。

回	放送日	内容
#1	2018/1/10	松山市中心部の歴史
#2	2018/2/14	札ノ辻から毘沙門坂までの歴史
#3	2018/3/14	坂の上の雲ミュージアム付近について
#4	2018/4/11	湯築城跡①
#5	2018/5/9	湯築城跡②
#6	2018/6/13	湯築城跡③
#7	2018/7/11	城山公園①
#8	2018/8/8	城山公園②
#9	2018/9/12	城山公園③
#10	2018/10/10	三津浜①
#11	2018/11/14	三津浜②
#12	2018/12/12	道後温泉①
#13	2019/1/9	道後温泉②
#14	2019/2/13	秋山兄弟生誕地①
#15	2019/3/13	秋山兄弟生誕地②
#16	2019/4/10	花園町と正岡子規
#17	2019/5/8	松山総合公園①
#18	2019/6/12	松山総合公園②
#19	2019/7/10	杖の淵公園
#20	2019/8/14	レインボーハイランド
#21	2019/9/11	柳井町
#22	2019/10/9	萱町
#23	2019/11/13	道後①
#24	2019/12/11	道後②
#25	2020/1/8	道後③
#26	2020/2/12	ロープウェー通り①
#27	2020/3/11	ロープウェー通り②
#28	2020/4/8	二の丸史跡庭園
#29	2020/5/13	久谷地区①
#30	2020/6/10	久谷地区②
#31	2020/7/8	松山の川①
#32	2020/8/12	松山の川②
#33	2020/9/9	これまでの振り返り（最終回）

「松山歴史散歩」のリスト



余土公民館での打ち合わせ



重信川での撮影の様子



余戸土地改良区へのインタビュー



余土地区水路前での撮影の様子

#	日時	インタビュー
1	2020/9/1 (火)	余土公民館へヒアリング
2	2020/9/29 (火)	石井前公民館長へヒアリング
3	2020/10/15 (木)	椿神社宮司へのヒアリング
4	2020/10/20 (火)	後藤酒造へヒアリング
5	2020/11/6 (金)	余戸土地改良区へヒアリング
6	2020/11/10 (火)	椿神社へのヒアリング
7	2020/11/19 (木)	前吉川土地改良区理事長へのヒアリング
8	2020/12/11 (金)	坂の上の雲ミュージアム、四国電力と打ち合わせ
9	2021/3/1 (月)	余土編試作品撮影（余土公民館）
10	2021/3/8 (月)	余土編試作品撮影（余戸土地改良区）

映像制作の履歴

## (3) ウェブページの更新

### 1) 取組の概要

2019年に改修したウェブページのコンテンツを更新した。特に、各プロジェクトの紹介ページを作成し、それぞれの具体的取り組みの紹介ページを一部追加を行なった。また、関係者のインタビューを掲載する「声」ページのフォーマットを作成した。



追加したインタビューフォーマット

# おわりに

UDCM 副センター長  
松村 暢彦

UDCM の 6 年目は COVID19 への対応と試行錯誤で 1 年間が過ぎた感がある。

まちづくりは、いつの時代においても長期と短期の社会・経済的な影響を複合的に受けて、長期的なものについては計画を作つてそれに備えるとともに、短期では悪影響を回避し、よい影響を享受できるように迅速に対応してきた歴史でもある。2020 年 12 月に発行された柏谷先生の「松山市の都市計画道路－計画と整備－」を拝読すると、ほとんど松山市内に自動車がない時代の昭和 9 年に策定した都市計画街路網図が戦後の戦災復興計画に如何に影響を与えたかを理解することができる。先人もまちづくりに影響を与える長期的な社会変化を読むことに苦労しながらもその時点を考え抜いて決めてきた。その点は現在も変わりはない。IT を活用した自動運転や個別化した情報ツールを活用した生活そのもののナビゲーションなど要素技術の社会化、高齢化の進展と人口減少社会など未知の社会が待っているいるだろう。それに対しては、先達を見習って、地域のステークホルダーの方々の知恵と力を借りて、未来に対して将来のあるべき社会、松山を考え抜き、それに対するビジョンを策定していくことが UDCM でも求められる。その一方で、この 1 年間の難しさは、まちに人が集まり、集積の経済が働く仕組みと基盤整備を進めていく長期的なベクトルがあるにもかかわらず、感染対策の号令のもとに人が集まらないことをすすめざるを得なかった、長期と短期のまた裂き状態にあると考える。今、人が集まらなくても集まる必要が出てきたとき、人が集まりたくなつた時に街がタイムラグなくまちが元に戻つていれば問題はないが、実際のまちは不可逆過程のものが多くあり、いつたん失ったものはとりもどせないものも多い。したがつて、人が集まらない中でも、どうにかやりすごして賑わいづくりの種火は消さないように花園町の日曜市の支援などを進めてきた。こうした取り組みが長期的にまちにどのような影響を及ぼすかはこの後の UDCM も含めた地域ステークホルダーの取り組みに依存する。

まちの本質は「あう」ことにある。人と人との「会う」

場所であり、恋人など親しい人と「逢う」場所でもある。人ばかりではなく、場合によっては好ましくないことに「遭う」かもしれないが、一生を変えてしまうような思いがけないよいできごとに「遇う」機会を提供する場所でもある。こうしたまちの本質は変わらないと信じているので、今後の UDCM の「創る」「交わる」「学ぶ」「知る」活動に注視していっていただきたいと思う。



## 活動履歴

### 2020年4月

- 1 (水) : もぶるラウンジ臨時休館 (~ 7/26)
- 8 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #1
- 13 (月) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
- 15 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #2
- 16 (木) : 花園町オープンテラス運営マニュアル素案提案
- 30 (木) : もぶるラウンジ運営チームミーティング #1

### 2020年5月

- 1 (金) : 広場運営に関する情報交換会 #1
- 12 (火) : UDCM 運営会議 #1
- 14 (木) : お散歩プログラムチームミーティング #1
- 15 (金) : 「広報まつやま」にアーバンデザインスクール5期生の成果掲載
- 20 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #3
- 25 (月) : もぶるラウンジ運営チームミーティング #2
- 27 (水) : 広場運営に関する情報交換会 #2
  - : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #4
- 29 (金) : コロナと公共空間運営関係者意見交換会

### 2020年6月

- 1 (月) : 花園町オープンテラス (主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 実施支援 (~ 2021/3/31)
  - : 利用状況調査 (UDCM 前通り) (~ 2021/3/31)
- 3 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #5
- 4 (木) : お散歩プログラムチームミーティング #2
- 10 (水) : お散歩プログラムチームミーティング #3
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #6
- 11 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
- 12 (金) : 全国 UDC オンラインミーティング
- 15 (月) : UDCM 運営会議 #2
  - : まつやま路上利用プロジェクト立ち上げ
- 17 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #7
- 18 (木) : 広場運営に関する情報交換会 #3
- 23 (火) : 道路占用・路上利用意見交換会
- 24 (水) : スマートシティ官民連携プラットフォーム都市マネジメント分科会
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #8
- 25 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング

### 2020年7月

- 1 (水) : 道路占用許可基準緩和についての情報交換会
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #9
- 7 (火) : 道路占用・路上利用意見交換会
- 8 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #10
- 9 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
- 11 (土) : 銀天街商店街合同会合 (路上利用に関する助言)
- 16 (木) : UDCM 運営会議 #3
- 18 (土) : 路上利用調査 (銀天街、利用前・休日)
- 20 (月) : お散歩プログラムの提案内容を一般公開
- 22 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #11
- 27 (月) : もぶるラウンジ一般利用を再開
- 29 (水) : 広場運営に関する情報交換会 (第4回)
- 30 (木) : 路上利用調査 (銀天街、利用前・平日)

### 2020年8月

- 1 (土) : 路上利用調査 (銀天街、利用中・休日)
  - : まつやま路上利用プロジェクト in 銀天街 (主催: 松山銀天街第一商店街振興組合、松山銀天街商店街振興組合) 開催支援 (~ 8/10)
- 4 (火) : スマートシティ官民連携プラットフォーム都市マネジメント分科会
- 5 (水) : 北条高校視察対応
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #12
- 6 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
  - : 路上利用調査 (銀天街、利用中・平日)
- 7 (金) : 第16回 松山市都市再生協議会
- 19 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #13
- 20 (木) : 路上利用調査 (銀天街、利用後・平日)
- 22 (土) : 路上利用調査 (銀天街、利用後・休日)
- 24 (月) : 都市形成史リサーチ・興居島現地調査
- 25 (火) : 都市形成史リサーチ・安居島現地調査
- 26 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #14
- 28 (金) : 広場運営に関する情報交換会 (第5回)
  - : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング

### 2020年9月

- 4 (金) : 環境審議会第1回スマートシティ検討部会
- 9 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #15
- 10 (木) : まつやま路上利用プロジェクト取組内容を一般公開
  - : 商工会議所小売部会にて講演「路上を利用したウイズコロナ時代の新しい営業様式の紹介」(板東)
  - : スマートシティ官民連携プラットフォーム都市マネジメント分科会
- 12 (土) : これからに向けての広場利用調査意見交換会 #1
  - : 都市形成史リサーチ・中島調査 (~ 13 (日))
- 16 (水) : もぶるラウンジ屋外スペース整備検討会 #1
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #16
- 17 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
- 20 (日) : まちを旅する4つの屋台 (移動する建築) 利活用支援
- 23 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #17
- 24 (木) : UDCM 運営会議 #4
- 25 (金) : もぶるラウンジ利用案内を更新
  - : もぶるラウンジ専用利用の申請受付を再開
- 30 (水) : 『屋外空間でのイベント開催に向けた感染予防対策検討の手引き』一般公開
  - : もぶるラウンジ屋外スペース整備検討会 #2
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #18

### 2020年10月

- 3 (土) : 全国 UDC 会議
- 7 (水) : もぶるラウンジ運営チームミーティング #3
  - : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #19
- 8 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
- 15 (木) : 高松市視察対応
- 18 (日) : お城下マルシェ花園 (主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 19 (月) : UDCM 運営会議 #5
- 21 (水) : ヴィジョン (都市形成史リサーチ) ミーティング #20
- 22 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング
  - : 一般社団法人松山アーバンデザインネットワークの設立

- 23 (金) : 第8回全国まちなか広場研究会 in 熊本前年祭@オンライン (板東)  
 24 (土) : 都市形成史リサーチ・神和調査 (~25日)  
 25 (日) : まつやま花園日曜市 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援  
     : 通行量調査 (UDCM 前通り、イベント開催時)  
     : まちを旅する4つの屋台 (移動する建築) 利活用支援  
     : 展示『かえりみちをつくる』(主催: 松山市、ことばのちから実行委員会、企画協力: ブンカ・ラボ) 協力 (~11/29)  
 26 (月) : もぶるラウンジ運営チームミーティング #4  
     : お散歩プログラムの実践レポートを一般公開

#### 2020年11月

- 1 (日) : 通行量調査 (UDCM 前通り、平時)  
 5 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 9 (月) : もぶるラウンジ活動コンセプトサイン作業 #1  
 11 (水) : 河原デザイン・アート専門学校教育課程編成委員会  
 13 (金) : もぶるラウンジ活動コンセプトサイン作業 #2  
 14 (土) : 防災まちあるき  
 15 (日) : お城下マルシェ花園 (主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力  
     : まちを旅する4つの屋台 (移動する建築) 利活用支援  
 16 (月) : もぶるラウンジ活動コンセプトサイン作業 #3  
 18 (水) : 官民連携まちなか再生推進事業作業ミーティング #1  
 19 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 22 (日) : まつやま花園日曜市 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援  
     : まつやま花園日曜市「写真コンテスト」実施 (11月分)  
     : 通行量調査 (UDCM 前通り、イベント開催時)  
     : まちを旅する4つの屋台 (移動する建築) 利活用支援  
     : 企画展示『花園町の歴史 Vol.1』 (~12/27)  
 23 (月) : 展示「写真コンテスト」応募作品 (11月分) (~12/27)  
 25 (水) : もぶるラウンジ活動コンセプトサイン作業 #4  
 26 (木) : 松山市駅前広場におけるレーザーセンサー (3D LiDAR) を用いた人流計測の実証実験 (株式会社日立製作所、株式会社日立情報通信エンジニアリング) (~11/27)  
     : UDCM 運営会議 #6

#### 2020年12月

- 2 (水) : 市駅前まちづくり勉強会  
 3 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 11 (金) : もぶるラウンジ活動コンセプトサイン作業 #5  
 17 (木) : 展示「防災まち歩き『防災マップ』」(共催: 松山防災リーダー育成センター) (~12/27)  
     : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 20 (日) : お城下マルシェ花園 (主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力  
 21 (月) : UDCM 運営会議 #7  
 25 (金) : 官民連携まちなか再生推進事業作業ミーティング #2  
 27 (日) : まつやま花園日曜市 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援  
     : まつやま花園日曜市「写真コンテスト」実施 (12月分)  
 28 (月) : 展示「写真コンテスト」応募作品 (12月分) (~2021/3/31)

#### 2021年1月

- 6 (水) : もぶるラウンジ屋外スペース整備工事 (~2/15)  
 9 (土) : 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会

- 14 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 18 (月) : UDCM 運営会議 #8  
 28 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 29 (金) : 官民連携まちなか再生推進事業作業ミーティング #3

#### 2021年2月

- 3 (水) : 市駅前エリマネ意見交換会 #1  
 5 (金) : SCI-Japan ウェビナー@オンライン  
 9 (火) : 「花園町通り商店マップ」常設展示開  
 10 (水) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 12 (金) : 官民連携まちなか再生推進事業作業ミーティング #4  
 13 (土) : オンラインまち歩きワークショップ (日立東大ラボ主催)  
 15 (月) : ヒアリング対応 (日本経済研究所)  
 18 (木) : 伊予銀行・愛媛銀行との意見交換  
 25 (木) : これからに向けての広場利用調査意見交換会 #2  
     : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
 26 (月) : UDCM 運営会議 #9  
 27 (土) : ワークショップ「市駅前広場の整備に向けて～人の流れと広場～」  
 28 (日) : 花園町のいろいろ冊子シリーズ第1弾『はなぞの移り変わるまちの風景』発行

#### 2021年3月

- 1 (月) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
     : 「松山歴史まちあるき (余土編)」撮影 #1  
 4 (木) : 市駅前エリマネ意見交換会 #2  
 6 (土) : もぶるラウンジ植栽作業 (テラス)  
 8 (月) : もぶるラウンジ植栽作業 (前庭)  
     : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
     : 「松山歴史まちあるき (余土編)」撮影 #2  
 11 (木) : 松山スマートシティ推進コンソーシアムミーティング  
     : 環境審議会第2回スマートシティ検討部会  
     : 市駅前エリマネ意見交換会 #3  
 15 (月) : UDCM フォーラム開催  
     : 寄稿「見どころ土木遺産 石手川橋梁一原位置にある現役最古の鉄道トラス橋一」土木学会誌 Vol.106 No.3 March 2021, 74-75 (板東)  
 17 (水) : 花園町のいろいろ冊子シリーズ第2弾『はなぞのいろいろ人にぎわう道』発行  
 22 (月) : UDCM 運営会議 #10  
 24 (水) : 河原デザイン・アート専門学校教育課程編成委員会  
 27 (土) : 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会  
 30 (火) : 第3回これからに向けての広場利用調査意見交換会

## 論文・講演・受賞等

### 出版

- 柏谷増男（2020）  
「松山市の都市計画道路一計画と整備ー」

### 委員

- 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会（委員）：吉田
- 松山市環境審議会スマートシティ検討部会（オブザーバー）：四戸
- 河原デザイン・アート専門学校教育課程編成委員会（委員）：四戸

### 講演

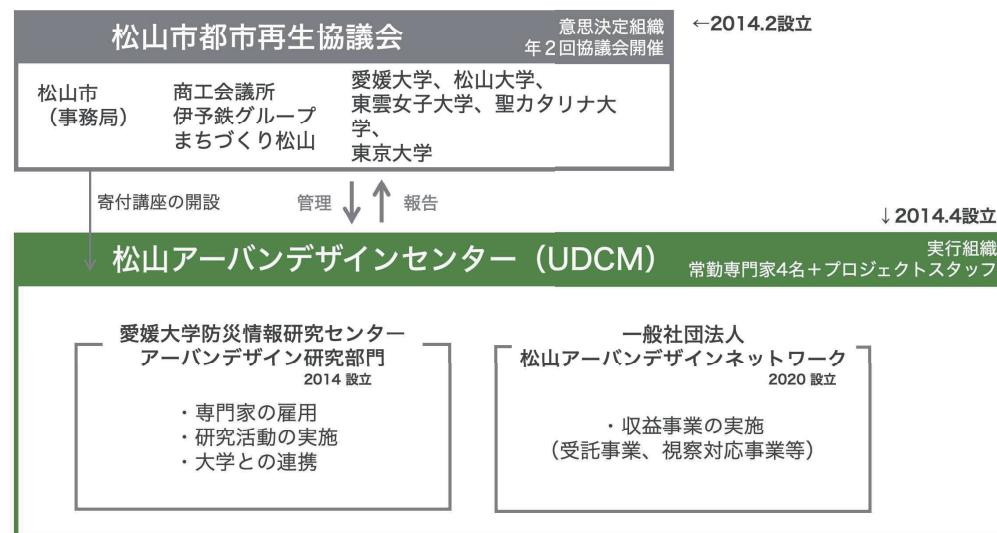
- 商工会議所小売部会講演@松山商工会議所  
「路上を利用したウイズコロナ時代の新しい営業様式の紹介：板東
- 第8回全国まちなか広場研究会 in 熊本前年祭@オンライン  
「コロナ禍の取り組み紹介」：板東
- 市駅前まちづくり勉強会@伊予鉄会館  
「デザインガイドラインの作り方について」：四戸
- SCI-Japan ウェビナー@オンライン  
「UDCのまちづくり～公・民・学連携の方法論（2）『松山アーバンデザインセンター（UDCM）の取り組み』」：四戸

### 視察対応

- 北条高校\_4名（2020.8.5(水)）
- 高松市\_2名（2020.10.15(木)）

## 運営体制

### 〈組織構成〉



### 〈スタッフ〉

センター長	羽藤 英二 (東京大学)	(※は常勤スタッフ)
副センター長	松村 暢彦 (愛媛大学) 羽鳥 剛史 (愛媛大学)	
ディレクター	三谷 卓摩 (愛媛大学) ※ 四戸 秀和 (愛媛大学) ※ 板東 ゆかり (愛媛大学) ※ 吉田 英生 (愛媛大学) ※	
アシスタントディレクター	柴田 典子 (愛媛大学) ※ 日野 順子 (愛媛大学)	
事務スタッフ	大野 利恵 (愛媛大学) ※	
プロジェクトディレクター	石飛 直彦 (復建調査設計 (株)) 岡田 栄司 ((株) いよぎん地域経済研究センター) 園部 修也 ((株) 愛媛銀行ひめぎん情報センター) 浅子 佳英 (タカバニスタジオ) 福山 祥代 (日産自動車 (株)) 古谷 純 ((株) 日立製作所) 松本 啓治 (坂の上の雲ミュージアム) 吉田 純土 (国土技術政策総合研究所) 井上 昌善 (愛媛大学)	
	小野 悠 (豊橋技術科学大学) 片岡 由香 (愛媛大学) 河内 俊樹 (松山大学) 高杉 公人 (聖カタリナ大学) 野方 円 (松山東雲女子大学) 曲田 清維 (愛媛大学) 山中 亮 (愛媛大学)	
プロジェクトアドバイザー	千代田 憲子 (愛媛大学) 泉谷 昇 (NPO 法人いよココロザシ大学)	

松山アーバンデザインセンター  
年間報告書 2020